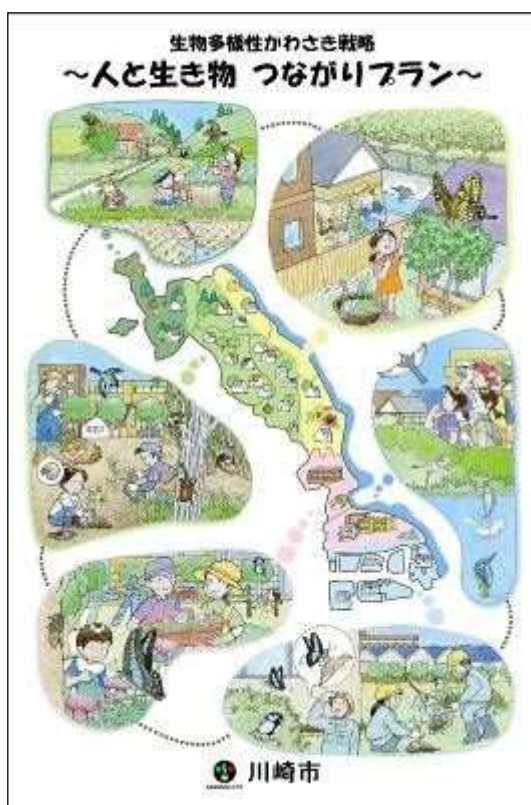


生物多様性かわさき戦略 ～人と生き物 つながりプラン～

平成 29 年度取組状況報告書



【取組状況報告書目次】

1	リーディング・プロジェクトの取組状況	1
2	生態系エリア別の取組状況	9
3	2018 年度版環境基本計画年次報告書 (関連事項抜粋)	23
4	生物多様性かわさき戦略の施策評価	34
5	生物多様性の保全関連情報	35
6	(参考) 市内の生物多様性の状況把握のための参照種	36
7	(参考) 生物多様性の保全に向けた動き	42

本市では、生物多様性の保全に向けて「生物多様性かわさき戦略～人と生き物 つながりプラン～」を定め、「人と生き物をつなげる」、「生き物をつなげる」、「情報をつなげる」の3つのつながりの基本方針を柱とした7つの施策別取組方針を基に体系的に整理しながら各種施策の総合的かつ計画的な推進を図っています。

この取組状況報告書は、生物多様性かわさき戦略の進行管理と点検のため、平成 29 年度の取組状況について取りまとめたものであり、今後の生物多様性の保全に向けて活用してまいります。

1 リーディング・プロジェクトの取組状況

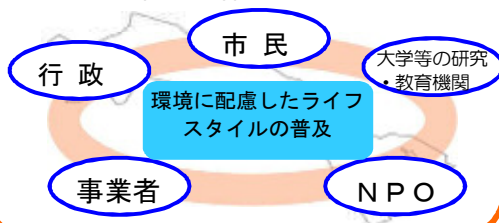
「生物多様性かわさき戦略～人と生き物つながりプラン～」では、戦略の推進にあたって特に重要な取組をリーディング・プロジェクトとして定め、これらの取組を先行的に進めて施策を牽引することとしています。

リーディング・プロジェクトに掲げる15項目の事業は、平成29年度も継続して取組を推進しました。施策別取組方針ごとのプロジェクトの主な実施内容は次のとおりです。

基本方針Ⅰ

人と生き物をつなげる

生物多様性への認識や環境に配慮したライフスタイルを広め、積極的に活動する人材を育み、市民・事業者等と協働して生物多様性の保全に取り組みます



1 環境配慮意識を広めて人と生き物をつなげるプロジェクト

- 目的：生物多様性への関心を広める。
生物多様性への配慮意識を広める。
市民活動等での生物多様性に配慮した活動を広める。
- 事業① 地域の魅力を発見する
事業② 生物多様性について理解を深める
事業③ 生物多様性に配慮して活動する

2 人材を育て人と生き物をつなげるプロジェクト

- 目的：次世代を担う子どもたちの環境配慮意識を育む。
生物多様性に関する環境教育・環境学習を推進する人材を育む。
- 事業④ 子どもたちが自然とふれあい学ぶ
事業⑤ 生物多様性の保全に取り組む人材の育成

基本方針Ⅱ

生き物をつなげる

多様な緑や水等の自然環境を、生き物の視点で生息・生育環境となる空間を守り、つなげて質を高め、さらに創り出していき、人・生き物にやさしいまちづくりに取り組みます



3 生き物のすみかを守って生き物をつなげるプロジェクト

- 目的：生き物の生息・生育の拠点を守る。
生き物にとって大切な水環境を守る。
- 事業⑥ 拠点となる樹林や農地を保全する
事業⑦ 良好な水環境を保全する

4 緑と水をつなげたコリドーで生き物をつなげるプロジェクト

- 目的：生き物に配慮したコリドーづくりで生き物の生息・生育の拠点をつなぐ。
広域的な視点で緑と水をつなぐ。
- 事業⑧ 河川を活用して拠点をつなげる
事業⑨ 広域的に生き物の生息・生育環境をつなげる

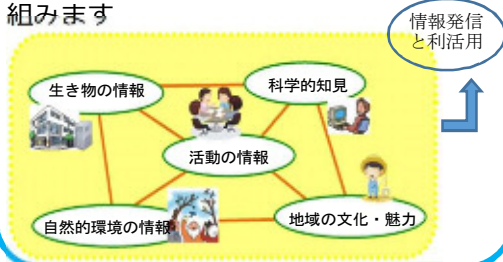
5 まちなかに拠点を創って生き物をつなげるプロジェクト

- 目的：公共施設を中心に生き物の生息・生育環境を創る。
更なる緑化推進により生き物の生息・生育環境を創る。
- 事業⑩ 生き物に配慮した公園づくり
事業⑪ 生き物に配慮した緑化地づくり

基本方針Ⅲ

情報をつなげる

生物多様性の保全に関する様々な情報や知見を集めて、広く発信していくとともに、誰もが活用できるように取り組みます



6 調査や知見等を集めて情報をつなげるプロジェクト

- 目的：多様な主体と連携して生物多様性に関する情報を集める。
生物多様性に関する知見を集める。
- 事業⑫ 市域の生き物について調べる
事業⑬ 生物多様性の新たな知見をつくる

7 地域間、主体間で伝えて情報をつなげるプロジェクト

- 目的：川崎市の生物多様性に関する情報をわかりやすく伝える。
活動の情報等について主体を越えて伝える。
- 事業⑭ 生き物の情報を“見える化”する
事業⑮ 情報を活用してネットワークを構築する

プロジェクト事業①【地域の魅力を発見する】・・・生物多様性への関心を広める

地域の自然や文化等の特性を再発見する機会づくり等、本市の生物多様性について考えるきっかけをつくります。



高津区で「たかつ生き物探検隊」を開催するなど市内の様々な場所で自然観察会等を実施し、平成 29 年度は計 143 回開催しました。また、「第 44 回川崎みなと祭り」を開催するなどみなとにふれ合うイベントを継続して実施しました。

自然観察会やみなとにふれ合うイベントを継続して実施しました。
今後も自然観察会の実施等により、生物多様性について考えるきっかけづくりを進めていきます。

プロジェクト事業②【生物多様性について理解を深める】・・・生物多様性への配慮意識を広める

関連するイベント等を通じて、家庭からの環境配慮意識が高まるような普及啓発に取り組みます。



生物多様性の普及啓発に向けて、平成 27 年度に作成した生物多様性かわさき戦略～人と生き物つながりプラン～の概要版を、花と緑の市民フェア、動物愛護フェアなど、様々なイベント等で配布しました。

また、人と動物の共生を目指した「ひと どうぶつ MIRAI プロジェクト」の始動や、動物愛護フェアかわさき 2017 の実施を通じて、ペットの終生飼養等について普及啓発を行いました。

さらに、川崎アゼリア広報コーナー、CCかわさき交流コーナー、里山フォーラム in 麻生で、展示も行いました。

フォーラム等の実施としては、里山フォーラム in 麻生での展示による参加など様々なイベントにおいて普及啓発を行いました。
今後も生物多様性について理解を深めるための普及啓発を積極的に進めていきます。

プロジェクト事業③【生物多様性に配慮して活動する】

・・・市民活動等での生物多様性に配慮した活動を広める

市民等の様々な活動の分野や地域ごとに異なる生物多様性への配慮を促進するため、望まれる具体的な取組を示すガイドラインづくり等を通して活動を支援します。



平成 26 年度に作成した「生物多様性の保全に取り組む方々へのメッセージ～活動ポイント事例集～」をホームページで公開しているほか、里山ボランティア講座の「生物多様性とは何か」についての講義の中で話題提供を行うなどガイドラインの普及と地域活動の促進を図りました。



また、水辺の楽校（かわさき、だいし、とどろき）の活動も継続して支援しました。

（写真：多摩川水辺の楽校シンポジウム川崎の様子）

平成 26 年度に活動ポイント事例集を作成し、平成 27 年度から市民活動団体に公開しています。また、水辺の楽校の支援などにも継続して取り組みました。
今後も生物多様性への配慮につながる市民活動の支援を継続して実施していきます。

プロジェクト事業④【子どもたちが自然とふれあい学ぶ】

・・・次世代を担う子どもたちの環境配慮意識を育む

次世代を担う子どもたちが自然とふれあい、地域の生き物への興味・探究心を育む、環境教育・環境学習を推進します。



生き物観察教材（環境副読本に掲載）

平成 27 年度に小学生向け環境副読本の中に「川崎市内で見られる身近な生き物～身近な生き物観察シート～」を盛り込み、平成 29 年度も継続して市内の小学 4 年生全員に配布しました。



小学校での生き物観察結果

平成 27 年度に環境副読本に身近な生き物観察シートを盛り込み、平成 29 年度も川崎市内のすべての小学校に配布をしました。また、市内幼稚園にも生き物さがしに協力していただきました。今後も学校等と連携し教材の充実化を図ります。

プロジェクト事業⑤【生物多様性の保全に取り組む人材の育成】

・・・生物多様性に関する環境教育・環境学習を推進する人材を育む

生物多様性の保全の観点を取り込んだ活動や調査等を実践する人材育成講座等を実施して、積極的に取り組む地域のリーダーを育成します。



自然観察会の様子

自然についてより深く学びたい人に向けた講座として、かわさき宙と緑の科学館では、平成 29 年度も生田緑地において「生田緑地観察会」等、各種観察会、講座を実施しました。

第 20 期地域環境リーダー育成講座を開催し、7 人が修了し、平成 29 年度末現在、延べ修了者数は 316 名となりました。
 緑化推進リーダー育成講座は 20 人が修了しました。
 里山ボランティア育成講座は 28 人が修了し、地域環境リーダー育成講座及び平成 22 年度以降の緑化推進リーダー、里山ボランティア育成講座の延べ修了人数は平成 29 年度末現在で延べ 756 人（対前年度で 55 人増加）となりました。



地域環境リーダー育成講座の風景

自然調査員養成講座については、自然についてより深く学びたい人に向けた講座として実施したほか、地域環境リーダー等の各種講座の実施に継続して取り組みました。今後も生物多様性に関する講座等の実施により、積極的に取り組む人材を育成していきます。

プロジェクト事業⑥【拠点となる樹林や農地を保全する】・・・生き物の生息・生育の拠点を守る
 ・生き物の生息・生育環境となる樹林地を保全する取組を推進します。
 ・市内の農地の保全を推進し、生き物の生息・生育環境の保護につなげます。



久末イノ木特別緑地保全地区

都市緑地法に基づいて都市計画に定めて緑地を恒久的に保全する「特別緑地保全地区」として、平成 29 年度末現在、75 か所を指定しています。

また、良好な緑を形成している土地の区域等を「緑の保全地域」として、平成 29 年度末現在、34 か所を指定しています。

このほか、保全緑地として、平成 29 年度末現在、104.8ha（対前年度で 1.3ha 増加）を取得しています。



里山での環境学習

特別緑地保全地区や緑の保全地域に指定した緑地の緑を恒久的に保全するため、生物多様性等を考慮した良好な自然的環境を維持していく適切な管理が欠かせません。

このため、川崎市では地域住民等との協働によるワークショップ方式で保全管理計画を作成し、その活動を支援しています。

平成 29 年度末現在、29 地区（対前年度で 1 地区増加）で保全管理計画を作成しています。

また、グリーン・ツーリズムの実践のほか、明治大学との連携、大型農産物直売所内の情報発信施設での共同事業の実施なども含めた都市農地の保全も図っています。

生産緑地は平成 29 年 12 月 5 日現在、1,759 箇所、約 276ha が登録されています。

さらに、里山再生事業の推進として、黒川地区における「緑地保全活用基本計画」の推進を行いました。



親子で梨の収穫体験

緑地の保全や保全管理計画の作成、生産緑地の指定の推進、里山保全事業は、継続して取組を進めました。
 今後も生き物の生息・生育拠点となる樹林や都市農地の保全に向けた取組を進めていきます。

プロジェクト事業⑦【良好な水環境を保全する】・・・生き物にとって大切な水環境を守る
 水量、水質、水生生物、水辺地の 4 つの要素がバランスよく構成されている状態を目指して良好な水環境の保全に取り組みます。



夏休み水環境体験教室の様子

平成 24 年 10 月に「水環境保全計画」を策定し、水環境を水量、水質、水生生物、水辺地の 4 つの構成要素として総合的に捉えた施策の推進を図っています。具体的な施策として、工場・事業場からの排水の監視・指導や、河川・海域等の水質調査による環境基準達成状況等の把握、生物調査の実施、雨水浸透施設の普及促進等に取り組んでいます。

また、平成 29 年度は、水環境に親しみ、学んでいただくことを目的とした「夏休み水環境体験教室」を開催しました。

「夏休み水環境体験教室」では、水環境の歴史や水質の調べ方を学んだ後、実際に川や湧水地に行き、「かわさき水辺地市民調査マニュアル」を使って、水質や水辺にすむ生き物を調べました。

水量、水質、水生生物、水辺地の水環境の 4 つの要素ごとに掲げる各施策について、水環境保全計画推進委員会による進行管理の下、取組を進めました。
 今後も良好な水環境の保全に向けた総合的な施策を進めていきます。

プロジェクト事業⑧【河川を活用して拠点をつなげる】

・・・生き物に配慮したコリドーづくりで生き物の生息・生育の拠点をつなぐ
 河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全創出するための河道の形成を図ります。



平瀬川支川の風景

多自然川づくりを推進し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するための河川管理を行っています。

平瀬川支川については、平成 29 年度までの改修区間が累計 781m となっています。



川崎のシンボルである「ふるさとの川・多摩川」の歴史的・文化的資源、そして環境資源を最大限に活かしたにぎわいの場（憩い、遊ぶ、学ぶ）を創出するため、平成 27 年度に「川崎市新多摩川プラン」を策定し、取組を進めています。

多自然川づくりの整備等も継続して取組み、平成 29 年度までの平瀬川支川の改修区間が累計 781m となっています。

今後も生き物の生息・生育・繁殖環境及び河川景観の保全創出するための河道の形成を進めていきます。

プロジェクト事業⑨【広域的に生き物の生息・生育環境をつなげる】

・・・広域的な視点で緑と水をつなぐ
 市民や事業者、近隣自治体等との協働により、広域的な環境保全に取り組めます。

【東京湾再生推進会議等による取組】

東京湾再生推進会議モニタリング分科会^{※1}、九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会^{※2}及び東京湾岸自治体環境保全会議^{※3}では、平成 20 年度から、国や自治体のほか企業及び市民団体等の参加を募り、東京湾岸域及び流域各地において、東京湾環境一斉調査（東京湾における流域及び海域の環境一斉調査）を実施しています。

※ 1 国土交通省・農林水産省・環境省・東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市

※ 2 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市

※ 3 東京湾岸に面する 1 都 2 県 16 市 1 町 6 特別区の 26 自治体



多摩・三浦丘陵ウォーキングラリー

【多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議による取組】

多摩・三浦丘陵でつながる 13 都市[※]による多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議では、地域の重要な緑と水景を「みどりはつなぎ手」という共通認識に基づき「市民・企業・行政の協働によって保全・再生・創出・活用していくこと（新たなコモンスの再生）を目的とした連携事業に取り組んでいます。

平成 29 年度は多摩・三浦丘陵ウォーキングラリーを J R 横浜線十日市場駅～ズーラシア間（横浜市）で開催しました。

※ 相模原市・八王子市・日野市・多摩市・稲城市・町田市・横浜市・鎌倉市・逗子市・葉山町・横須賀市・三浦市・川崎市

多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議等、広域連携事業についても、平成 29 年度も継続して取り組みました。

今後も市民、事業者、近隣自治体等との協働・連携による環境保全に向けた施策を進めていきます。

プロジェクト事業⑩【生き物に配慮した公園づくり】

・・・公共施設を中心に生き物の生息・生育環境を創る

公共施設、とりわけ公園等において樹林地、草地の確保や、花や実のなる樹木の植栽・管理等、生き物に配慮した整備等を推進します。

市の施設での生き物に配慮した整備づくりの推進として、生物多様性の保全に取り組む方々へのメッセージ～活動ポイント事例集～を基に、平成 28 年度に庁内向け資料となる「生き物のいる環境づくり～生物多様性に配慮した公共施設の整備等～」を作成し、施設管理者等と共有しました。



小田公園におけるリフレッシュパーク事業が平成 29 年 7 月に完了しました。

このほか、開発公園等による提供公園として平成 29 年度は 6 か所 (1,549m²) が開設されました。

小田公園におけるリフレッシュパーク事業が、平成 29 年 7 月に完了しました。今後もまちなかに生き物の生息・生育拠点を創る取組を進めていきます。

プロジェクト事業⑪【生き物に配慮した緑化地づくり】

・・・更なる緑化推進により生き物の生息・生育環境を創る

地域の生態系に配慮した植栽や、民有地等における屋上、壁面緑化等を活用した建築物周辺の更なる緑化等により、生き物の生息・生育に配慮した緑化を推進します。



【自然的环境保全への配慮に向けた指導・助言】

対象事業区域が 500 m以上の建築行為及び開発行為で、一定規模の樹林地や農地等の自然環境を有する場合、事業者に対して、対象事業区域内の自然環境の把握と、その保全・回復・創出に関する具体的な事業計画を立てていただくよう、指導・助言しています。

平成 27 年度に自然的环境保全配慮書の様式と、川崎市緑化指針の一部について改正しました。平成 29 年度も引き続き運用しました。

【建築物環境配慮制度 (CASBEE 川崎)】

建築物の建築に際し、建築主に対して環境への配慮に関する自主的な取組を促し、地球温暖化その他環境への負荷の低減を図るため、建築物環境配慮制度 (CASBEE 川崎) を推進しています。

平成 29 年度は 63 件の届出がありました。



【市と事業所等との緑化協定】

緑化協定の締結により、事業所における緑化の推進を図っています。

平成 29 年度は 67 件、緑地面積は 153ha となっています。

改正した川崎市緑化指針により開発事業者に対して指導・助言を継続して行いました。今後も生き物の生息・生育に配慮した緑化に関して指導・助言を進めていきます。

プロジェクト事業⑫【市域の生き物について調べる】

・・・多様な主体と連携して生物多様性に関する情報を集める
 様々な事業で実施されている生き物情報を収集、整理するとともに、地域を絞り込んだ調査や市民団体等と連携した調査等により、市域の生き物に関する情報をとりまとめます。

かわさき宙と緑の科学館で取りまとめた「川崎市自然環境調査報告書」は、同館ミュージアムショップで販売しています。また、市域の生き物に関する情報を掲載する「川崎市青少年科学館紀要」は、同館ホームページで閲覧できます。

環境総合研究所などが、河川（4地点）、親水施設（3地点）、多摩川河口干潟（5地点）でも生物調査を実施しました。



親水施設調査の様子



サワガニ（親水施設調査で確認）

市内の生き物の生息・生育状況に関する調査を、平成 29 年度も関係機関において実施しました。今後も市内の生き物の生息・生育情報の収集・整理を進めていきます。

プロジェクト事業⑬【生物多様性の新たな知見をつくる】・・・生物多様性に関する知見を集める
 ・川崎市の特性を踏まえた生物多様性の指標を作成し、生物多様性に関する状態の把握に取り組みます。

・多様な主体と連携した調査・研究等の実施により、生物多様性に関する調査研究を推進します。



生き物調査の実施の様子

【生物多様性指標づくりに向けた生き物調査】

生物多様性の指標の一つとして、あらかじめ設定した地区において生き物調査を実施しました。

平成 28 年度は、参照種を設定しました。（p36 参照）

平成 29 年度は、市民参加型生き物調査を試行実施しました。



大学での研究風景

【市内の緑地を活用した大学における研究】

玉川大学では、岡上杉山下特別緑地保全地区でノネズミ類と植生に関する研究を実施しました。

明治大学では、西黒川特別緑地保全地区での生物調査等を実施しました。

東京農業大学では、早野梅ヶ谷特別緑地保全地区での林床管理が生態系に及ぼす影響に関する研究を実施しました。

平成 29 年度は市民参加型生き物調査を試行実施しました。また、里山コラボなど、民間事業者等の多様な主体と連携した調査・研究も継続して取り組みました。今後も生物多様性の状態の把握や多様な主体と連携した調査・研究を進めていきます。

プロジェクト事業⑭【生き物の情報を“見える化”する】

・・・川崎市の生物多様性に関する情報をわかりやすく伝える

市民等から身近な生き物に関する情報を集め、電子地図等を活用して市域の四季折々の生き物の情報をわかりやすく伝えていきます。



かわさき生き物マップ

【かわさき生き物マップ】

川崎市ホームページ「ガイドマップかわさき」に、市民投稿型の地図表示サイト「かわさき生き物マップ」を掲載しています。

春夏秋冬における市内で見られる生き物情報を募集し、平成 29 年度は 2,951 件の投稿がありました。



「みんなで作る生き物図鑑」も引き続き運用

かわさき生き物マップを活用して、季節ごとに生き物情報の投稿の呼びかけや小学校での授業での活用呼びかけを行い、市域の生き物情報を公開しました。

今後も四季折々の生き物情報をわかりやすく伝えていきます。

プロジェクト事業⑮【情報を利用してネットワークを構築する】

・・・情報を利用してネットワークを構築する

生物多様性に関する様々な施設間での情報共有の推進や、市民、事業者等、主体間での情報交流等を図ります。

【生物多様性に関する庁内会議の開催】

市役所内の関係施設などを含めた庁内会議として、生物多様性に関する施設間庁内情報交流会や、環境教育・学習推進会議を開催して、情報共有しました。



環境教育・学習推進会議



多摩川流域セミナー

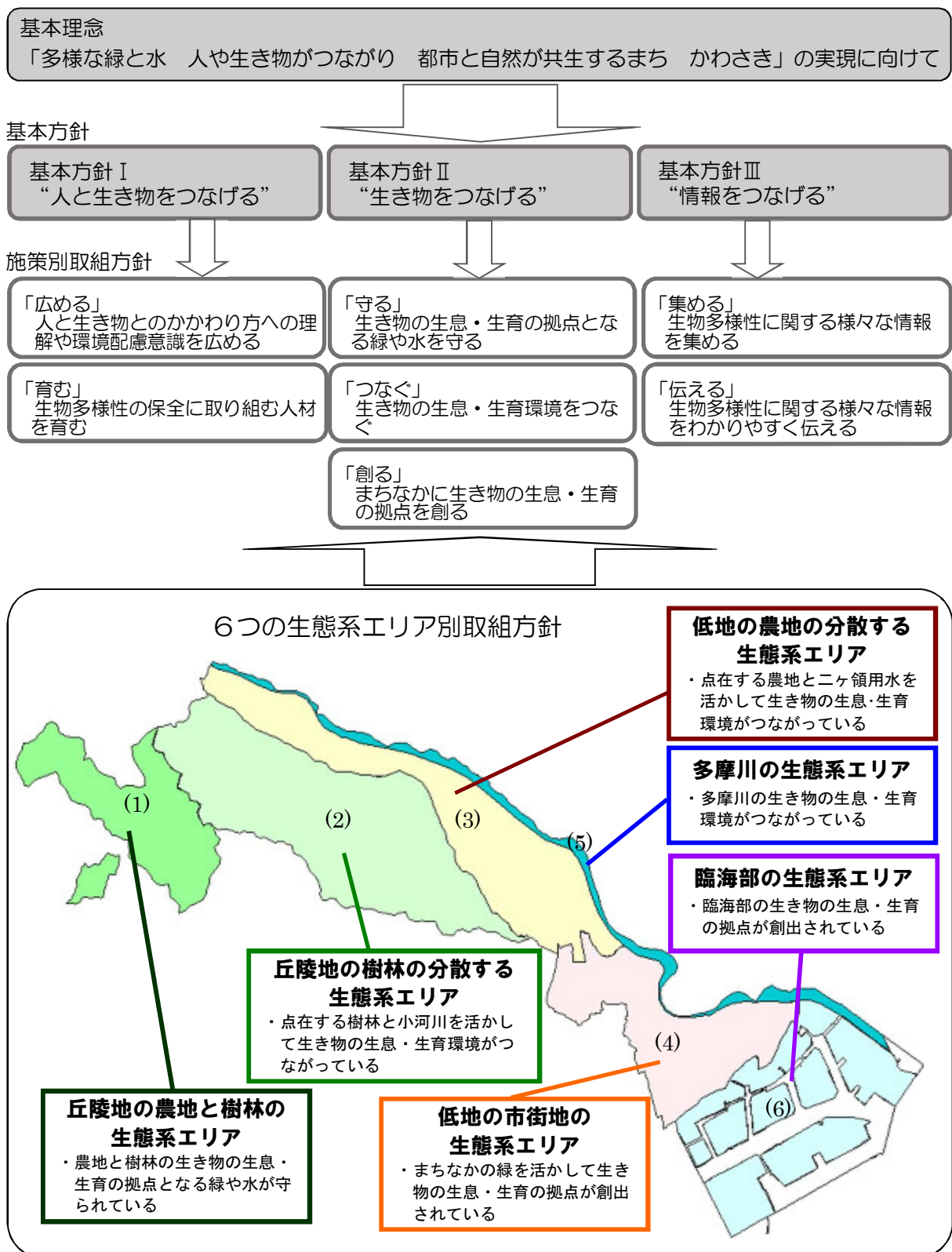
【多摩川流域セミナーの開催】

市民団体、流域自治体、河川管理者等で構成する多摩川流域懇談会において、多摩川流域セミナーを平成 29 年度は 2 回開催しました。

平成 29 年度は市民団体、流域自治体、河川管理者等で構成する多摩川流域懇談会において多摩川流域セミナーを開催したほか、庁内の関係課長会議、施設間庁内情報交流会を開催しました。

今後も様々な施設間や、市民、事業者等、主体間での情報交流等を進めていきます。

2 生態系エリア別の取組状況



生物多様性かわさき戦略・将来ビジョン

- 生態系エリア
- 丘陵地の農地と樹林の生態系エリア
- 丘陵地の樹林の分散する生態系エリア
- 低地の農地の分散する生態系エリア
- 低地の市街地の生態系エリア
- 多摩川の生態系エリア
- 多摩川の生態系エリア
- 多摩川の生態系エリア

空この図は、生物多様性の保全に配慮したまちのイメージを共有するため、戦略期間にとらわれず、長期的な視点を持って描いています。

低地の農地の分散する生態系エリア

点在する農地と二ヶ所排水を活かして生き物の生息・生育環境が広がっている



河川等での良好な水辺環境の保全

まちなかの緑の維持、創出

- 凡例
- <人と生き物をつなげる> エコロジカルネットワーク
 - 人に生き物をつなげる場 (小学校や市民館の増築)
 - <生き物をつなげる> エコロジカルネットワーク
 - 農地と樹林を主軸にした生き物の生息・生育の拠点
 - 河川と水辺を主軸にした生き物の生息・生育の拠点
 - 小規模な農地や樹林のまとまりによる生き物の生息・生育の拠点
 - 河川や排水路等に整備された公園の樹林・遊歩道の生き物の生息・生育の拠点
 - まちなかの緑
 - 河川や排水路等を利用したコリドーの創出
 - <情報をつなげる> エコロジカルネットワーク
 - 生物多様性に関する情報の収集・発信の拠点

多摩川の生態系エリア

・多摩川の生き物の生息・生育環境が広がっている



水と緑の保全・創出・ネットワーク化

水辺環境の長生

臨海部の生態系エリア

・臨海部の生き物の生息・生育の拠点が創出されている



まちなかの緑の維持、創出

海岸の水辺環境の保全

丘陵地の農地と樹林の生態系エリア

・農地と樹林の生き物の生息・生育の拠点となる緑や水が守られている



樹林や竹林の適正管理

自然とのふれあいや憩いの場

低地の市街地の生態系エリア

・まちなかの緑を活かして生き物の生息・生育の拠点が創出されている

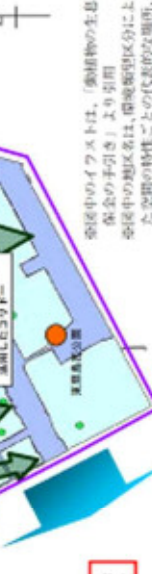


公園や噴水等による緑のネットワーク化

まちなかの緑の維持、創出

丘陵地の樹林の分散する生態系エリア

・点在する樹林と小川を活かして生き物の生息・生育環境が広がっている



樹林や竹林の適正管理

河川等での良好な水辺環境の保全

丘陵地の農地と樹林の生態系エリア

・農地と樹林の生き物の生息・生育の拠点となる緑や水が守られている



樹林や竹林の適正管理

自然とのふれあいや憩いの場

多摩丘陵の広域ネットワーク



多摩川の広域ネットワーク



東京湾の広域ネットワーク



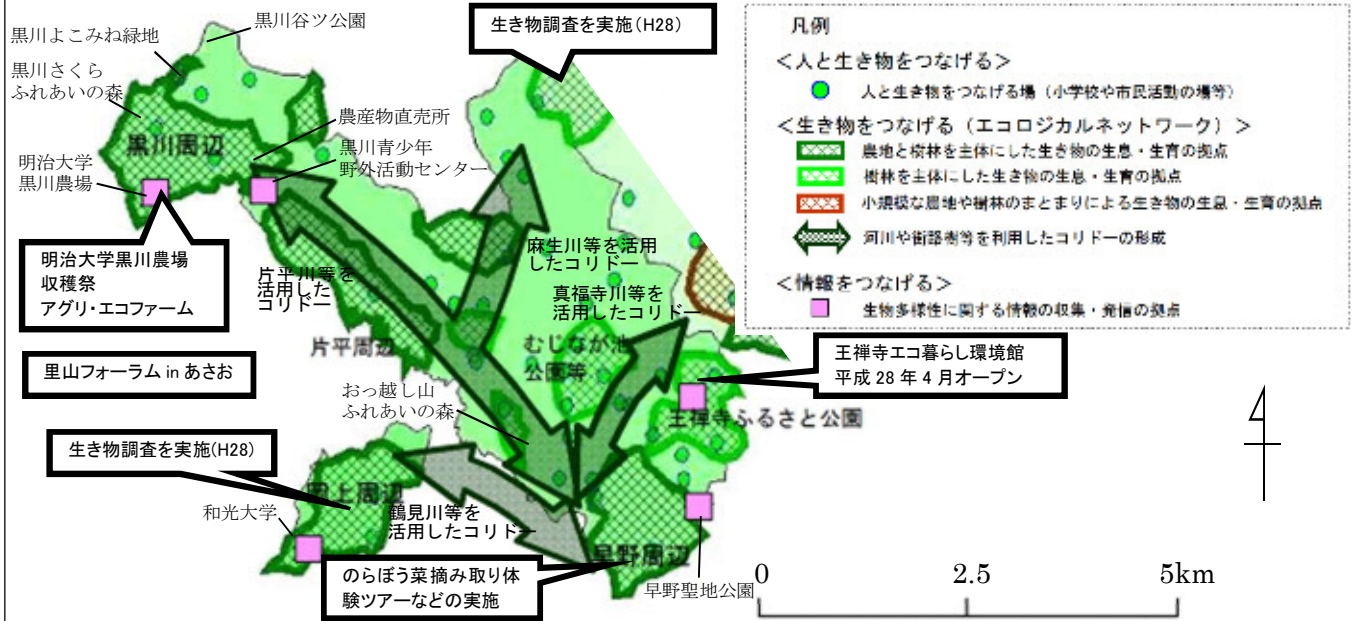
図 3-4 戦略で目指す将来ビジョン

空図中のイラストは、「森林植物の生息・生育環境保全の手引き」より引用
空図中の地図は、「環境影響評価」により抽出された空図の特性ごとの代表的な場所、及び取組の大規模公園等の名称を表示

①丘陵地の農地と樹林の生態系エリア

平成 29 年度取組状況

取組方針「農地と樹林地の生き物の生息・生育の拠点を守る」



エリアの特徴 市域北西部丘陵地に位置し、農業振興地域を含む黒川、岡上、早野地区をはじめ、生き物の生息・生育の拠点となる農地や樹林がまとまって分布する地域が多く含まれ、河川等がそれらをつないでいる。

取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・農業振興施策の推進による生き物の生育・生息環境の保全 ・緑地保全施策の推進、生き物の生息環境としての質に着目した緑地保全活動等の促進 ・地域の環境を活用した自然とふれあう場づくり
特に重要な取組	<ul style="list-style-type: none"> ●農業振興地域における畑等を活用した農業研修講座の実施 ・川崎市農業振興計画～次世代に引継ぐ かわさきの「農業」～（平成 28 年 2 月策定）に基づき、グリーン・ツーリズムの実践のほか、明治大学との連携、大型農産物直売所内情報発信施設における共同事業の実施、早野里地里山づくり推進計画に基づく協働事業の実施等、都市農地の多面的な機能の活用に向けた取組を実施 ●緑地保全施策の推進と保全緑地管理計画づくりの推進 ・特別緑地保全地区、緑の保全地域の指定、保全緑地の取得、保全管理計画の策定 その他、川崎市緑の基本計画（平成 7 年 10 月策定、平成 20 年 3 月改正）に基づく施策の推進（大学連携による研究、企業と連携したかわさき里山コラボなど） ●自然環境を活かした情報発信の場づくり 里山フォーラム in あさお（麻生区地域課題対応事業-麻生里地山保全推進事業）
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ●生物多様性を広める場づくり：黒川地区緑地保全計画の検討等の里山再生事業の推進 ●人材を育む取組：里山ボランティア、緑化推進リーダー養成、地域環境リーダー育成 ●樹林地、農地、水辺地等の保全の取組：緑地保全、都市農地の保全、湧水地の保全 ●コリドーづくりに向けた取組：鶴見川、片平川、麻生川、真福寺川、三沢川の保全 ●様々な情報収集の取組：生き物調査（平成 28 年度：岡上杉山下周辺・向原の森公園） ●情報の交流・発信の取組：市民投稿型生き物マップによる生き物情報発信

生き物調査データ

調査場所：岡上杉山下周辺

調査日時：平成 28 年 4 月 13 日 7:00～15:00 平成 28 年 5 月 20 日 6:00～8:00
 平成 28 年 7 月 21 日 9:00～15:00 平成 28 年 7 月 29 日 9:00～15:00
 平成 28 年 10 月 20 日 9:00～15:00 平成 29 年 1 月 12 日 7:00～10:00



樹林地の部分

● 植物

ヒノキ、コナラ、リョウメンシダ、ベニシダ、ヤマイトチシダ、イノデ、県での減少が懸念されているタマノカンアオイ

● 哺乳類

アズマモグラ、減少が懸念されているタヌキ

● 鳥類

コゲラ、アオゲラ、カケス、ヤマガラ、エナガ、県での減少が懸念されているモズ、カワラヒワ、ツミ

● 昆虫

サトクダマキモドキ、ナナフシ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、クサギカメムシ、ゴマダラオトシブミ、クロコノマチョウ、ヒカゲチョウ、ズアカシダカスミカメ、ナミクチキムシ、シベリアカタアリ



モズ

草地の部分

● 植物

クズ、カナムグラ、ススキ、クワモドキ、ヒメコウゾ、キブシ、外来種であるアレチウリ

● 哺乳類

アズマモグラ

● 鳥類

ウグイス、ムクドリ、ホオジロ、アオジ、県での減少が懸念されているツバメ、外来種であるガビチョウ

● 爬虫類・両性類

ニホンカナヘビ、ニホンアマガエル

● 昆虫類

クサヒバリ、ショウリョウバッタ、ツマグロオオヨコバイ、アワダチソウグンバイ、ブタクサハムシ、ホシハラビロカメムシ、メダカナガカメムシ、アオドウガネ、コフキソウムシ、キタキチョウ、ツマグロヒョウモン、セイヨウミツバチ、シオカラトンボ、ヤブガラシグンバイ、県での減少が懸念されているマユタテアカネ



マユタテアカネ

調査場所：向原の森公園

調査日時：平成 28 年 4 月 12 日 7:00～15:00 平成 28 年 5 月 20 日 6:00～8:00
 平成 28 年 7 月 20 日 9:00～15:00 平成 28 年 10 月 19 日 9:00～15:00
 平成 29 年 1 月 12 日 7:00～10:00



樹林地の部分

● 植物

コナラ、ヤマザクラ、イヌシデ、アズマネザサ、ウグイスカグラ、ヒサカキ、キブシ、アワブキ、ベニシダ、ケチチミザサ、フデリンドウ、ヤマユリ、県での減少が懸念されているマヤラン

● 哺乳類

アズマモグラ

● 鳥類

キジバト、コゲラ、アオゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、トラツグミ、シロハラ、県での減少が懸念されているカワラヒワ、外来種であるコジュケイ、ガビチョウ

● 昆虫

カブトムシ、ノコギリクワガタ、コロギス、ヤスマツトビナナフシ、ニイニイゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、エサキモンキツノカメムシ、クロカナブン、ヒメクロオトシブミ、クロヒカゲ、ヒカゲチョウ、ダイミョウセセリ、ウラギンシジミ、ムラサキシジミ、オオヒラタシデムシ、センチコガネ



ダイミョウセセリ

草地の部分

● 植物

オオバコ、オヒシバ、センニンソウ、ノブドウ、ハンショウヅル

● 哺乳類

アズマモグラ

● 鳥類

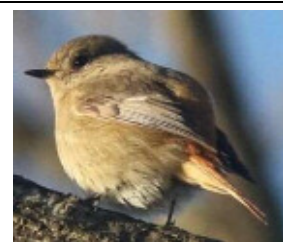
ウグイス、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、アオジ、県での減少が懸念されているツバメ

● 爬虫類・両性類

ニホンカナヘビ、県での減少が懸念されているヒガシニホントカゲ、アオダイショウ

● 昆虫類

シバズ、ショウリョウバッタ、ハラヒシバッタ、ヒゲナガカメムシ、オオバコトビハムシ、マルカメムシ、マメコガネ、クズノチビタマムシ、オジロアシナガソウムシ、キスジホソマダラ、チャバネセセリ、キタキチョウ、コマルハナバチ

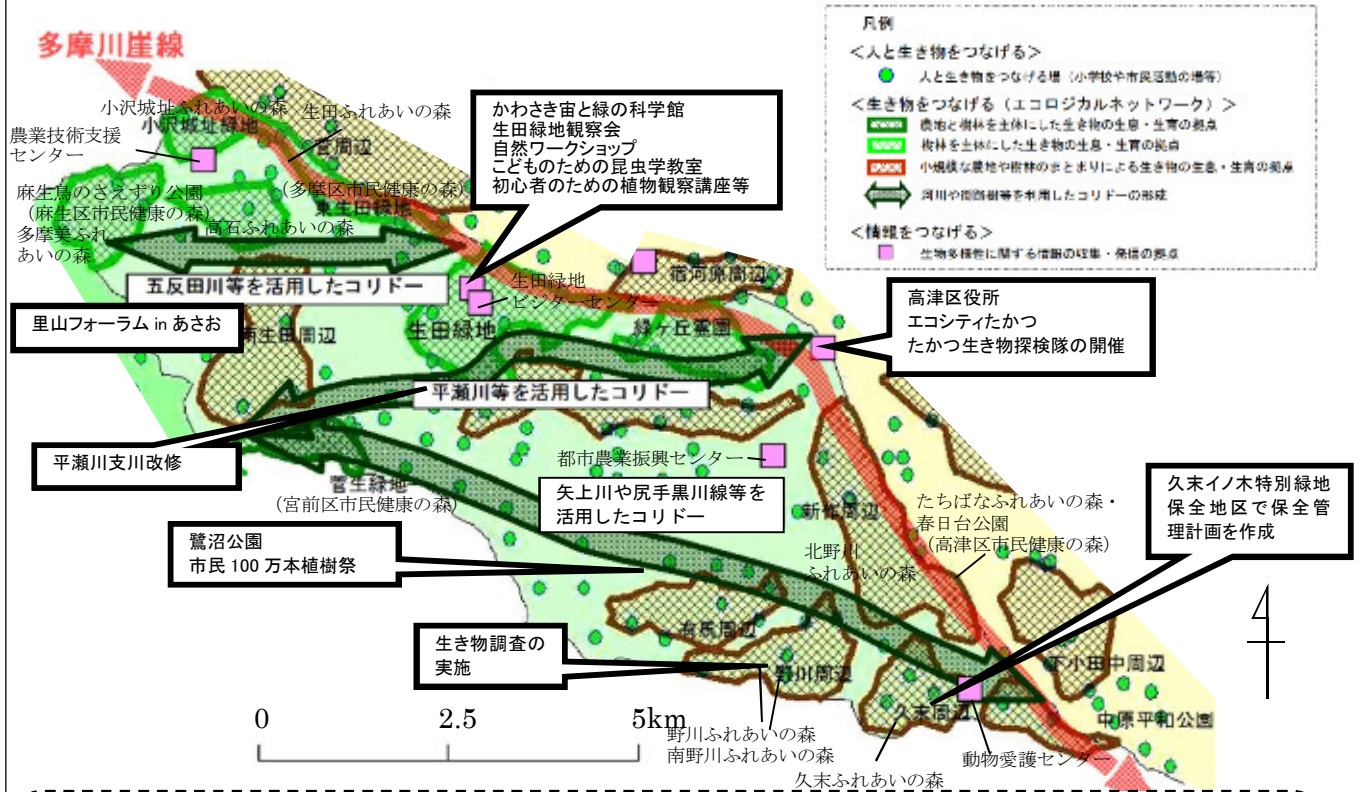


ジョウビタキ

②丘陵地の樹林の分散する生態系エリア

平成 29 年度取組状況

取組方針「点在する緑と小河川を活かして生き物の生息・生育環境をつなげる」



エリアの特徴 市域北西部丘陵地に位置し、生田緑地等生き物の生息・生育の拠点となる樹林がまとまって分布する地域が含まれ、河川や多摩川崖線の緑等がそれらをつないでいる。

取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全された緑地等における、生物多様性の観点での保全活動の推進 ・ 多摩川崖線上の連続した緑地の保全と併せ、小規模で点在している緑地の保全 ・ 地域の環境、施設等を活かした自然とふれあう場づくり
特に重要な取組	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>生田緑地ビジョン（平成 23 年 3 月策定）の推進</u> 生田緑地をフィールドとした企画イベントなどを実施 ● <u>多摩川崖線、孤立した樹林地を保全する緑地保全施策の推進と保全緑地管理計画づくりの推進</u> ・ 特別緑地保全地区、緑の保全地域の指定、保全緑地の取得、保全管理計画の策定 その他、川崎市緑の基本計画（平成 7 年 10 月策定、平成 20 年 3 月改正）に基づく施策の推進（企業と連携したかわさき里山コラボなど） ● <u>かわさき宙と緑の科学館における自然とふれあう場づくり</u> 生田緑地をフィールドとした自然観察会等の環境教育プログラムなどを実施
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性を広める場づくり： 青少年科学館を中心とした自然観察会等の実施 ● 人材を育む取組： 里山ボランティア、緑化推進リーダー養成、地域環境リーダー育成 ● 樹林地、農地、水辺地等の保全の取組： 緑地保全、都市農地の保全、湧水地の保全 ● コリドーづくりに向けた取組： 五反田川、平瀬川、矢上川、有馬川の保全 ● 様々な情報収集の取組： 生き物調査（南野川ふれあいの森・野川ふれあいの森） ● 情報の交流・発信の取組： 市民投稿型生き物マップによる生き物情報発信

生き物調査データ

調査場所：南野川ふれあいの森
 調査日時：平成 29 年 4 月 13 日 6:00~12:00
 平成 29 年 5 月 18 日 5:30~8:00
 平成 29 年 7 月 7 日 9:00~12:00
 平成 29 年 10 月 17 日 9:00~12:00
 平成 29 年 11 月 1 日 9:00~12:00
 平成 30 年 1 月 9 日 7:00~9:30



樹林地の部分

- 植物
シラカシ、コナラ、クヌギ、エノキ、ミズヒキ、タチツボスミレ、ムラサキシキブ、シュンラン、ヤマホトトギス、ガマズミ、ムラサキケマン、ヤマザクラ
- 鳥類
コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、メジロ、アトリ、オナガ、ヒヨドリ、県での減少が懸念されているキセキレイ、ルリビタキ、アオジ、外来種であるガビチョウ
- 爬虫類・両性類
ニホンカナヘビ、県での減少が懸念されているアオダイショウ
- 昆虫
コバネヒシバツタ、ナナフシモドキ、ツブノミハムシ、エンマコオロギ、カネタタキ、ダイミョウセセリ、ゴマダラチョウ本土亜種、サトキマダラヒカゲ、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ、コクワガタ、カブトムシ(幼虫)、アキアカネ、ハラビロカマキリ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミナミトゲヘリカメムシ、カボチャミバエ、減少が懸念されているタマムシ、エノキカイガラキジラミ、外来種であるアカボシゴマダラ



エナガ



アキアカネ

調査場所：野川ふれあいの森
 調査日時：平成 29 年 4 月 13 日 9:30~11:00,13:00~14:30
 平成 29 年 5 月 18 日 8:30~10:00
 平成 29 年 7 月 7 日 13:00~15:30
 平成 29 年 10 月 17 日 13:00~14:30
 平成 29 年 11 月 1 日 13:00~14:30
 平成 30 年 1 月 9 日 10:00~12:00



樹林地の部分

- 植物
ケヤキ、コナラ、シラカシ、エノキ、ミズヒキ、タチツボスミレ、ムラサキシキブ、シュンラン、ヤマザクラ、マダケ、モウソウチク、アズマネザサ、ヤダケ
- 鳥類
アトリ、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、オナガ、エナガ、コゲラ、県での減少が懸念されているツバメ、外来種であるガビチョウ
- 爬虫類・両性類
ヒガシニホントカゲ
- 昆虫
ツマキチョウ、コムスジ、アオスジアゲハ、カネタタキ、アブラゼミ、ヒゲジロハサミムシ、県での減少が懸念されているタマムシ、外来種であるアカボシゴマダラ



アトリ

草地の部分

- 植物
ヘビイチゴ、クサイチゴ、ヤハズエンドウ、オオバコ、ススキ
- 鳥類
ヒヨドリ、シジュウカラ、ウグイス、オナガ、県での減少が懸念されているカワラヒワ、ヒメアマツバメ、外来種であるガビチョウ
- 爬虫類・両性類
ニホンカナヘビ
- 昆虫類
クビキリギス、ツチイナゴ、モンキチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ジャコウアゲハ、ツマグロヒョウモン、オオカマキリ、県での減少が懸念されているショウリョウバッタモドキ

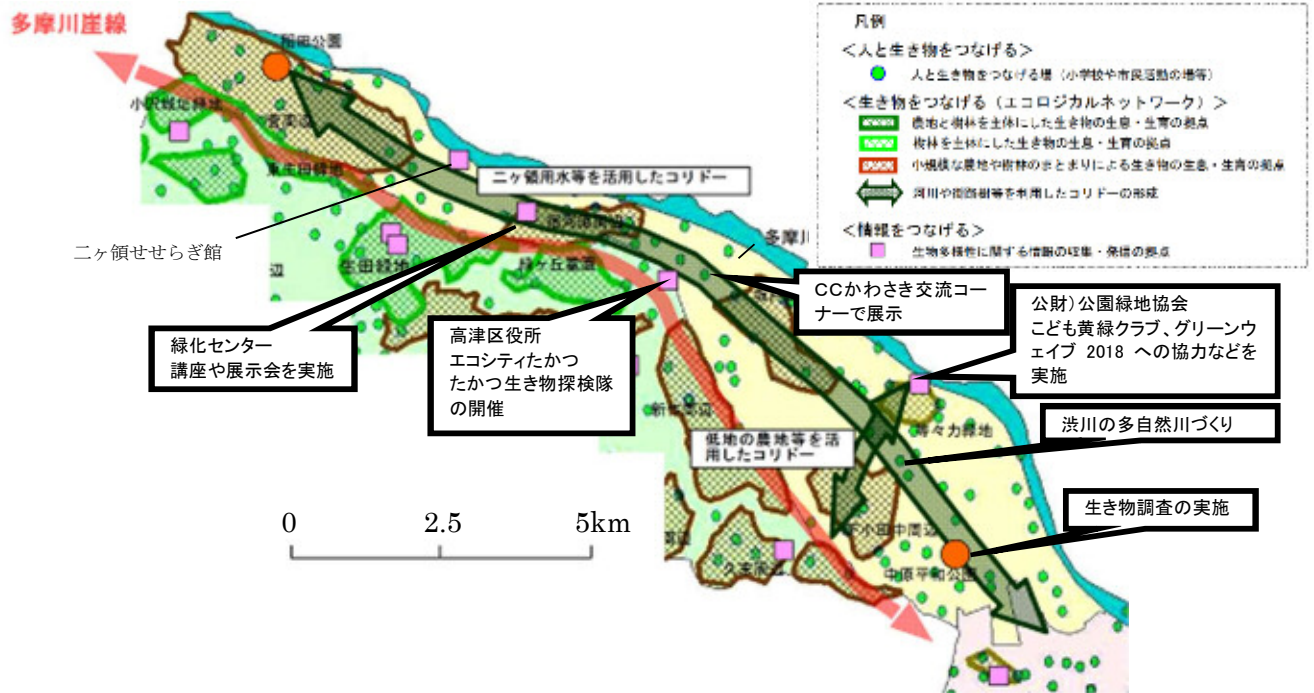


オオカマキリ

③低地の農地の分散する生態系エリア

平成 29 年度取組状況

取組方針「点在する農地と二ヶ領用水を活かして、生き物の生息・生育環境をつなげる」



エリアの特徴 多摩川に沿った沖積低地に位置し、生き物の生息・生育の拠点となる農地や公園等が分散して点在しており、二ヶ領用水や河川、街路樹等がそれらをつないでいる。

取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・二ヶ領用水や河川、街路樹等の良好な水辺環境や緑の連続性の維持 ・市街地に点在している農地の保全 ・地域の環境、施設等を活かした自然とふれあう場づくり
特に重要な取組	<ul style="list-style-type: none"> ●二ヶ領用水と渋川との分岐点周辺における多自然を考慮した整備 渋川整備基本計画に基づく渋川の多自然を考慮した整備 ●市街化区域内農地の保全・活用の推進 川崎市緑の基本計画及び川崎市農業振興計画～次世代に引継ぐ かわさきの「農業」～で位置付けている市街化区域内における生産緑地地区の指定の追加・拡大等の変更を実施したほか、平成 30 年 3 月に条例を制定する等指定要件を緩和。 ●緑化センター等を活用した自然とふれあう場づくり 川崎市緑化センターにおいて講習会、展示会等を開催
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ●生物多様性を広める場づくり：エコシティたかつ「たかつ生き物探検隊」の開催 ●人材を育む取組：里山ボランティア、緑化推進リーダー養成、地域環境リーダー育成 ●コリドーづくりに向けた取組：二ヶ領用水及び渋川の多自然川づくり ●まちなかの緑を創出する取組：屋上緑化支援、みどりの事業所の緑化 ●様々な情報収集の取組：生き物調査（中原平和公園及び公園周辺の二ヶ領用水） ●情報の交流・発信の取組：市民投稿型生き物マップによる生き物情報発信

生き物調査データ

調査場所：中原平和公園及び公園周辺の二ヶ領用水

調査日時：平成 29 年 4 月 17 日 6:00~13:30 平成 29 年 5 月 17 日 5:30~10:00
 平成 29 年 7 月 6 日 9:00~12:00 平成 29 年 10 月 18 日 9:00~14:00
 平成 30 年 1 月 10 日 7:00~10:00



樹林地の部分

- 植物
コナラ、ケヤキ、アズマネザサ、ヨモギ、フジ、タネツケバナ
- 鳥類
ヒヨドリ、シジュウカラ、スズメ、オナガ、ツグミ、コゲラ、
県での減少が懸念されているオオヨシキリ、センダイムシクイ、カ
ワラヒワ
- 爬虫類
ニホンカナヘビ
- 昆虫類
タイショウセセリ、イチモンジセセリ、ムラサキシジミ、ヤマトシ
ジミ、カブトムシ、クマゼミ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、アオマツ
ムシ、ツチイナゴ、エンマコオロギ、カネタタキ、オオシオカラトン
ボ、クロスジホソサジヨコバイ、アオドウガネ、シロテンハナムグリ、
ヒシモンナガタムシ、アカスジキンカメムシ



コゲラ



シジュウカラ

草地の部分

- 植物
シロツメクサ、シバ、ヒメチドメ、オオバコ、メヒシバ、コナスビ
- 鳥類
ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、イワツバメ、県での減少が懸念されて
いるツバメ
- 爬虫類
ニホンカナヘビ
- 昆虫類
モンシロチョウ、モンキチョウ、ツマグロヒョウモン、ナミアゲハ、
シオカラトンボ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、ツツレサセコオ
ロギ、ウリハムシ、ウズラカメムシ



ニホンカナヘビ

水辺・湿地の部分

- 植物
オニタビラコ、コセンダングサ、ヤマヤブソテツ、ヒヨドリジ
ョウゴ、減少が懸念されているカワヂシャ、外来種であるトウネ
ズミモチ
- 鳥類
カルガモ、県での減少が懸念されているツバメ
- 昆虫類
アメンボ、アオスジアゲハ、オオシオカラトンボ、ヤナギルリ
ハムシ



カルガモ

④低地の市街地の生態系エリア

平成 29 年度取組状況

取組方針「まちなかの緑を活かして、生き物の 生息・生育の拠点を創る」



エリアの特徴 多摩川に沿った沖積低地に位置し、自然的環境の分布は少なく、夢見ヶ崎公園等の公園等が生き物の生息・生育環境となっており、街路樹等がそれをつないでいる。

取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの緑の創出 ・公園緑地等を中心とした生き物の生息・生育環境となる樹林や水辺地の維持・保全 ・地域の環境、施設等を活かした自然とふれあう場づくり
特に重要な取組	<ul style="list-style-type: none"> ●緑化推進重点地区等の重点的に緑化を図るべき地区における緑化推進 川崎駅周辺及び新川崎・鹿島田駅周辺地区における公共施設・民間施設の緑化推進 ●公園緑地の整備における樹林地、水辺地等の創出や適正な維持管理の実施 川崎市緑の基本計画に基づく施策の推進（地域緑化推進地区の普及促進、街路緑化） 小田公園でのリフレッシュパーク推進事業（平成 29 年 7 月に完了） ●夢見ヶ崎公園等を活用した身近な自然や生き物とふれあう場づくりの実施 夢見ヶ崎動物公園の春・秋の動物園まつりや飼育の日などのイベントを実施
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ●生物多様性を広める場づくり：川崎アゼリア広報コーナーでの展示 ●人材を育む取組：里山ボランティア、緑化推進リーダー養成、地域環境リーダー育成 ●コリドーづくりに向けた取組：街路緑化 ●まちなかの緑を創出する取組：屋上緑化支援、みどりの事業所の緑化 ●様々な情報収集の取組：生き物調査（H28 年度：南河原公園及びさいわい緑道） ●情報の交流・発信の取組：市民投稿型生き物マップによる生き物情報発信

生き物調査データ

調査場所：南河原公園及びさいわ
い緑道

調査日時：平成 28 年 4 月 11 日
平成 28 年 5 月 20 日
平成 28 年 7 月 19 日
平成 28 年 10 月 18 日
平成 29 年 1 月 12 日



樹林地の部分

- 植物
ケヤキ、ソメイヨシノ、トウカエデ、スダジイ
- 鳥類
キジバト、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、県での減少が懸念されているカワラヒワ
- 爬虫類
ニホンヤモリ
- 昆虫類
アオマツムシ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシ、シロテンハナムグリ、ナミアゲハ、ヒロオビジョウカイモドキ、クロゴキブリ、ホシホウジャク、モンクチビルテントウ、外来種のアカボシゴマダラ



カワラヒワ

草地の部分

- 植物
オオバコ、エノコログサ、オヒシバ、カタバミ、タマサンゴ、ゼニアオイ、ヒメスミレ
- 鳥類
ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ
- 爬虫類
ニホンカナヘビ
- 昆虫類
クビキリギス、カネタタキ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ハマベアワフキ、イネホソミドリカスミカメ、ナガメ、ヒメカメノコテントウ、ツツジグンバイ、コクロイエバエ、ルリチュウレンジ、イチモンジセセリ、アオスジアゲハ、ベニシジミ、ツマグロヒョウモン、ヒメクロホウジャク、キムネクマバチ



ヒメスミレ



ツマグロヒョウモン

水辺・湿地の部分

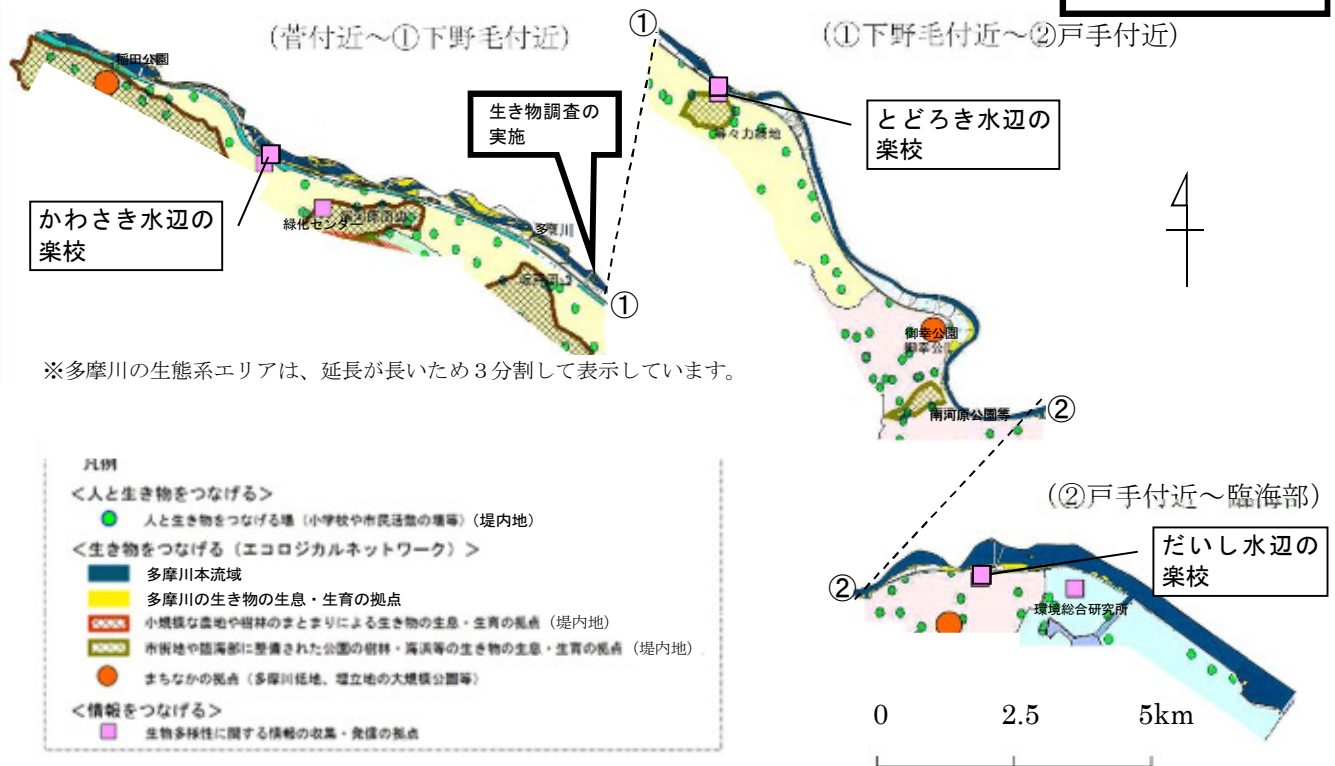
- 鳥類
カルガモ、スズメ、ハクセキレイ、県での減少が懸念されているツバメ
- 昆虫類
マツモムシ、ハイイロゲンゴロウ、アキアカネ

⑤多摩川の生態系エリア

平成 29 年度取組状況

取組方針「多摩川の生き物の生息・生育環境をつなげる」

- 水辺の楽校
多摩川での環境教育
- 多摩川流域セミナーの開催



※多摩川の生態系エリアは、延長が長いので3分割して表示しています。

- 凡例
- <人と生き物をつなげる>
 - 人と生き物をつなげる場（小学校や市民活動の場等）（堤内地）
 - <生き物をつなげる（エコロジカルネットワーク）>
 - 多摩川本流域
 - 多摩川の生き物の生息・生育の拠点
 - 小規模な草地や樹林のまとまりによる生き物の生息・生育の拠点（堤内地）
 - 市街地や臨海部に整備された公園の樹林・河浜等の生き物の生息・生育の拠点（堤内地）
 - まちなかの拠点（多摩川低地、埋立地の大規模公園等）
 - <情報をつなげる>
 - 生物多様性に関する情報の収集・発信の拠点

エリアの特徴 多摩川の河川敷（堤外地）を主として、河川区域の全体が生き物の生息・生育環境となっており、上下流や隣接する堤内地等をつないでいる。

取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川の河岸部の自然環境の保全 ・河川敷を中心とした生き物の生息・生育環境となる樹林や草地の維持・保全 ・地域の環境、施設等を活かした自然とふれあう場づくり
特に重要な取組	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>人材の育成及び市民に活用される学習拠点の充実</u> かわさき、とどろき、だいし水辺の楽校における川で楽しみながらの教育の実践 ● <u>小動物の棲みかになる草地の保全や鳥類が生息しやすい環境の創出</u> 新多摩川プラン（平成 19 年 3 月策定、平成 28 年 3 月改正）に基づく多自然川づくりの実施 ● <u>源流部から河口部までの流域間連携による様々な情報の交流・発信</u> 多摩川流域セミナーの開催、水辺の楽校シンポジウムの開催
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性を広める場づくり：水辺の楽校の開催 ● 人材を育む取組：里山ボランティア、緑化推進リーダー養成、地域環境リーダー育成 ● コリドーづくりに向けた取組：多摩川の多自然川づくり ● 様々な情報収集の取組：生き物調査（多摩川緑地（下野毛地区）） ● 情報の交流・発信の取組：市民投稿型生き物マップによる生き物情報発信

生き物調査データ

調査場所：多摩川緑地（下野毛地区）

調査日時：平成 29 年 4 月 12 日 6 : 00 ~ 14 : 30 平成 29 年 5 月 19 日 5 : 30 ~ 11 : 00
 平成 29 年 7 月 6 日 13 : 30 ~ 16 : 30 平成 29 年 10 月 19 日 9 : 00 ~ 14 : 00
 平成 29 年 11 月 2 日 9 : 00 ~ 14 : 00 平成 30 年 1 月 11 日 7 : 00 ~ 12 : 00



草地の部分

●植物

シロツメクサ、メヒシバ、シバ、ハマダイコン、外来種であるセイヨウカラシナ、セイバンモロコシ

●鳥類

アマサギ、イワツバメ、ツグミ、ムクドリ、タヒバリ、県での減少が懸念されているツバメ、オオヨシキリ、セッカ、モズ、オオタカ、ノスリ

●両生・爬虫類

ニホンカナヘビ、県での減少が懸念されているヒガシニホントカゲ、シマヘビ、アオダイショウ

●昆虫類

ベニシジミ、ツバメシジミ、ヤマトシジミ、モンキチョウ、スジグロシロチョウ、モンシロチョウ、イチモンジセセリ、ツマグロヒョウモン、ゴマダラチョウ、キアゲハ、ナミアゲハ、コバネイナゴ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ、エンマコオロギ、カネタタキ、ニイニイゼミ、アキアカネ、ナナホシテントウ、マメコガネ、県での減少が懸念されているハネナガイナゴ、ヒガシキリギリス、ヒロバネカントアン、コムラサキ、ヒメナガメ



アオダイショウ



ツグミ

水辺・湿地の部分

●植物

クサヨシ、ツルヨシ、ヨシ、オニグルミ、ヤナギタデ、オオイヌタデ、イヌタデ、ミゾソバ、ジュズダマ、オギ、外来種であるオランダガラシ

●鳥類

カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、オオバン、ユリカモメ、カワセミ、イワツバメ、ハクセキレイ、ツグミ、ムクドリ、減少が懸念されているツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカルチドリ、コチドリ、イソシギ、キアシシギ、コアジサシ

●両生・爬虫類

アズマヒキガエル、ニホンカナヘビ、外来種であるミシシッピアカミミガメ

●昆虫類

ヒメアメンボ、ハラビロカマキリ、アオモンイトトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、ヤナギルリハムシ、クロミヒロズヨコバイ、県での減少が懸念されているミヤマアカネ、ハグロトンボ



トビ

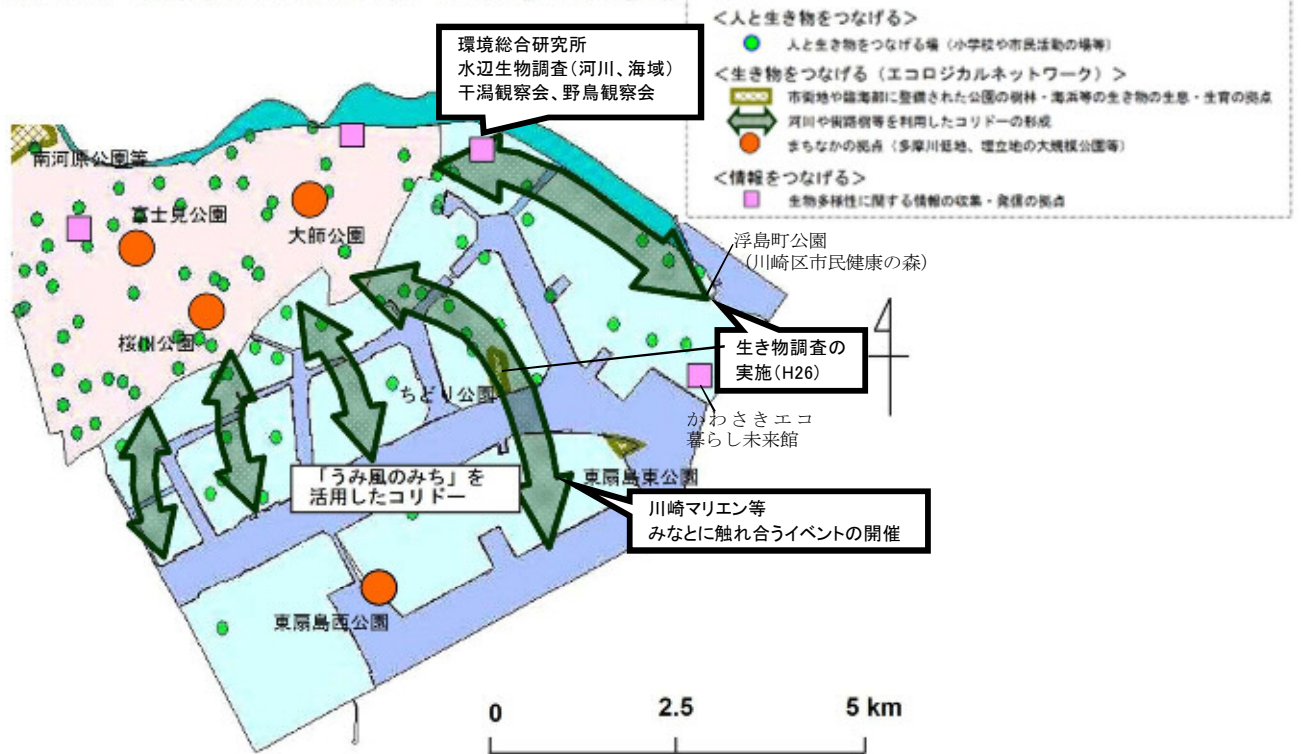


ハクセキレイ

⑥臨海部の生態系エリア

平成 29 年度取組状況

取組方針「臨海部の生き物の生息・生育の拠点を創る」



エリアの特徴 自然的環境の分布は少ないが、海域に面しており、東扇島東公園等の臨海公園や事業所の緑化地等が存在している。

取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかの緑の創出 ・ 事業所の緑化地等の維持・保全の誘導 ・ 地域の環境、施設等を活かした自然とふれあう場づくり
特に重要な取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 池上新町周辺の緑のネットワーク化の推進 ● 事業所による沿道緑化の促進の創出 <p>「かわさき臨海のもりづくり」緑化推進計画(平成24年6月策定)の施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 港における東扇島東公園等の港湾緑地(臨海公園)の維持、整備等の推進 <p>川崎港緑化基本計画(平成28年9月策定)の施策の推進</p> <p>港湾緑地(臨海公園)(東扇島東公園・東扇島西公園・東扇島中公園・東扇島北公園・東扇島緑道・白石町緑地・大川町緑地・千鳥橋周辺緑地・浮島つり園の適切な維持管理及び、浮島1期地区・ちどり公園・水江町緑地・塩浜係留護岸・未広物揚場の緑地整備等の推進)</p>
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性を広める場づくり：みなとに触れ合うイベントの開催 ● 人材を育む取組：里山ボランティア、緑化推進リーダー養成、地域環境リーダー育成 ● コリドーづくりに向けた取組：かわさき臨海のもりづくりの推進 ● 様々な情報収集の取組：生き物調査(平成26年度：浮島町公園等) ● 情報の交流・発信の取組：市民投稿型生き物マップによる生き物情報発信

生き物調査データ

調査場所：浮島町公園

調査日時：平成 26 年 9 月 1 日

平成 26 年 10 月 20 日

平成 27 年 1 月 9 日

平成 27 年 3 月 17 日

平成 27 年 5 月 20 日 07 : 00 ~ 10 : 00



樹林地の部分

●植物

クロマツ、マテバシイ、アラカシ、シラカシ、ウバメガシ、トベラ、ユズリハ、モチノキ、クロガネモチ、トウネズミモチ、ケヤキ、オオシマザクラ、カワヅザクラ、コナラ、エノキ、ガマズミ、ウメ、イロハモミジ

●哺乳類

ヒナコウモリ科の一種、減少が懸念されているタヌキ

●爬虫類

ニホンヤモリ

●鳥類

キジバト、ヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、オナガ、減少が懸念されているノスリ、カワラヒワ

●昆虫類

カナタタキ、カンタン、アブラゼミ、ミンミンゼミ、セアカヒラタゴミムシ、シロテンハナムグリ、アオスジアゲハ、ナガサキアゲハ、ナミアゲハ、ムラサキシジミ、外来種のアカボシゴマダラ



ヒヨドリ

草地の部分

●植物

シバ、ヤハズソウ、チャガヤツリ、ドクダミ、ミチタネツケバナ、ヨモギ、アキノノゲシ、ススキ、シロツメクサ、ヘラオオバコ、セイヨウタンポポ

●鳥類

キジバト、ハクセキレイ、シロハラ、ツグミ、スズメ、ムクドリ

●昆虫類

シバスズ、ツユムシ、ウスイロササキリ、ホシササキリ、サトクダマキモドキ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、アオドウガネ、コアオハナムグリ、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、キアゲハ、モンキチョウ、キタキチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、アカタテハ、ヒメアカタテハ、減少が懸念されているショウリョウバッタモドキ



キアゲハの幼虫

水辺・湿地の部分

●植物

ミソハギ、ヒメコウホネ、ガガブタ、ヒメガマ、コガマ、セリ

●哺乳類

減少が懸念されているタヌキ

●鳥類

アオサギ、ハクセキレイ

●昆虫類

ギンヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、アキアカネ



海、海岸の部分

●鳥類

ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、コガモ、スズガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、イソシギ、ハマシギ、ユリカモメ、オオセグロカモメ、セグロカモメ、ウミネコイソヒヨドリ、減少が懸念されているミサゴ

●昆虫類

ハマベハサミムシ



セグロカモメ

3 2018 年度版環境基本計画年次報告書（関連事項抜粋）

基本方針Ⅰ “人と生き物をつなげる”

(1) 施策別取組方針「広める」：人と生き物とのかかわり方への理解や環境配慮意識を広める

リーディング・プロジェクト：環境配慮意識を広めて人と生き物をつなげるプロジェクト

プロジェクトの目的
<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性への関心を広める →プロジェクト事業① ・生物多様性への配慮意識を広める →プロジェクト事業② ・市民活動等での生物多様性に配慮した活動を広める →プロジェクト事業③

プロジェクト事業① 【地域の魅力を発見する】	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や文化等の特性を再発見する機会づくり等、本市の生物多様性について考えるきっかけをつくります。 	点検する項目 ・自然観察会等実施状況
【点検結果】 生田緑地をはじめ、様々な場所で自然観察会等を実施しており、2017（平成 29）年度では、計 143 回の自然観察会を開催しました	

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018（平成 30）年度計画等
地域の自然を再発見するツアーの実施（Ⅲ-3-1-1） [環：環境総合研究所]	<input type="checkbox"/> ツアー等実施回数 ・河口干潟観察会：年 8 回開催 ・自然観察会：年 2 回開催	<input type="checkbox"/> ツアー等実施予定 ・河口干潟観察会：年 8 回 ・自然観察会：年 2 回
自然観察会や環境調査等の実施により、市民が地域の自然・生物と親しむ機会の創出（Ⅲ-4-3-2） [環：環境総合研究所] [環：水質環境課] [建緑：多摩川施策推進課] [教：青少年科学館] [区：高津区役所]	<input type="checkbox"/> 自然観察会等の実施件数 ・夏休み多摩川教室：年 1 回 ・水辺の楽校：年 37 回 ・多摩川河口干潟の生きもの観察会：年 8 回 ・河口干潟観察会：年 35 回 ・生田緑地観察会：年 32 回 ・自然観察会：年 5 回 ・夏休み、春休み理科教室：年 6 回 ・自然ワークショップ：年 11 回 ・夏休み水環境体験教室：年 2 回 ・昆虫講座：年 2 回 ・子ども生物かんさつ教室：年 2 回 ・たかつ生きもの探検隊：年 1 回 ・たかつ水と緑の探検隊：年 1 回	継続実施及び新規計画
みなとにふれ合うイベントの実施（Ⅵ-1-1-1） [港：誘致振興課]	<input type="checkbox"/> 外国船見学会開催 <input type="checkbox"/> 夏休み川崎港見学会：年 2 回開催 <input type="checkbox"/> 夏休み海洋環境教室 <input type="checkbox"/> みなと祭り開催 <input type="checkbox"/> ビーチバレーボール川崎市長杯開催 <input type="checkbox"/> ビーチバレーボール全日本大学選手権大会開催	<input type="checkbox"/> 外国船見学会開催 <input type="checkbox"/> 夏休み川崎港見学会：年 2 回開催 <input type="checkbox"/> 夏休み海洋環境教室 <input type="checkbox"/> みなと祭り開催 <input type="checkbox"/> ビーチバレーボール川崎市杯開催 <input type="checkbox"/> ビーチバレーボール全日本大学選手権大会開催

(注) 具体的施策名に示す () 内の表記は、環境基本計画年次報告の具体的施策事業の番号。

プロジェクト事業② 【生物多様性について理解を深める】		
<ul style="list-style-type: none"> 関連するイベント等を通じて、家庭からの環境配慮意識が高まるような普及啓発に取り組みます。 	点検する項目	
	<ul style="list-style-type: none"> フォーラム等実施状況 	
【点検結果】 グリーンウェイブへの参加呼びかけや、各種イベントでの講演や資料配布等による普及啓発を行いました。		
具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018(平成 30)年度計画等
生物多様性に関する普及啓発の実施(Ⅲ-3-1-1) [関係局・区]	<input type="checkbox"/> フォーラム実施等普及啓発状況 ・グリーンウェイブ：8団体参加 ・動物愛護フェアや花と緑の市民フェアでの普及啓発 ・里山フォーラム in 麻生での普及啓発 ・CCかわさき交流コーナーでの展示 ・川崎アゼリア広報コーナーでの展示 ・「エコシティたかつ」推進フォーラムの実施	<input type="checkbox"/> フォーラム実施等普及啓発予定 ・グリーンウェイブ参加 ・動物愛護フェアや花と緑の市民フェアでの普及啓発 ・川崎アゼリア広報コーナーでの展示 ・「エコシティたかつ」推進フォーラムの実施
動物の愛護と管理の促進(Ⅲ-3-1-1) [健：動物愛護センター]	<input type="checkbox"/> 終生飼養等普及啓発状況 ・動物愛護教室開催 37回 1,111名 ・譲渡前講習会 86回 97名 ・譲渡時講習会 71回 77名 ・しつけ方教室 2回 88名	継続実施
環境イベント・シンポジウム等開催による地球温暖化対策に関する意識啓発(I-1-2-3) [環：地球環境推進室]	<input type="checkbox"/> CC川崎エコ会議シンポジウム(11/14、86人参加) <input type="checkbox"/> 第6回スマートライフスタイル大賞の実施 <input type="checkbox"/> 国際環境技術展への出展 <input type="checkbox"/> CC等タカエコ暮らしこフェアの開催	<input type="checkbox"/> CC川崎エコ会議シンポジウム <input type="checkbox"/> 第7回スマートライフスタイル大賞の実施 <input type="checkbox"/> 国際環境技術展への出展 <input type="checkbox"/> CC等タカエコ暮らしこフェアの開催

プロジェクト事業③ 【生物多様性に配慮して活動する】		
<ul style="list-style-type: none"> 市民等の様々な活動の分野や地域ごとに異なる生物多様性への配慮を促進するため、望まれる具体的な取組を示すガイドラインづくり等を通して活動を支援します。 	点検する項目	
	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインを活用した講座等の実施状況 	
【点検結果】 「生物多様性の保全に取り組む方々へのメッセージ～活動ポイント事例集～」をホームページで公開しているほか、里山ボランティア講座の「生物多様性とは何か」についての講義の中で話題提供を行うなど、ガイドラインの普及と地域活動の促進を図りました。		
具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018(平成 30)年度計画等
生物多様性に配慮した活動ガイドラインづくり(Ⅲ-3-1-1) [環：環境調整課]	<input type="checkbox"/> 普及啓発 ・生物多様性の保全に取り組む方々へのメッセージ～活動ポイント事例集～を里山ボランティア講座の中で話題提供	継続実施
水辺の楽校の活動支援(VI-1-1-2) [建緑：多摩川施策推進課]	市内3校(かわさき、とどろき、だいし)で計37回実施、延べ3,222人が参加	市内3校(かわさき、とどろき、だいし)で計38回実施予定

(2) 施策別取組方針「育む」：生物多様性の保全に取り組む人材を育む

リーディング・プロジェクト：人材を育て人と生き物をつなげるプロジェクト

プロジェクトの目的
<ul style="list-style-type: none"> ・次世代を担う子どもたちの環境配慮意識を育む →プロジェクト事業④ ・生物多様性に関する環境教育・環境学習を推進する人材を育む →プロジェクト事業⑤

プロジェクト事業④ 【子どもたちが自然とふれあい学ぶ】	
<ul style="list-style-type: none"> ・次世代を担う子どもたちが自然とふれあい、地域の生き物への興味・探究心を育む、環境教育・環境学習を推進します。 	点検する項目 <ul style="list-style-type: none"> ・教材を活用したプログラム等実施状況
【点検結果】市内で身近に見られる生き物の観察教材を環境副読本に掲載したほか、水辺の楽校の活動（計 37 回開催。延べ 3,222 人が参加）を支援しました。	

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018 (平成 30) 年度計画等
身近な生き物観察教材の作成・配布（Ⅲ-3-1-1） [環：環境総合研究所] [環：環境調整課]	□教材の作成状況 ・小学生向け環境副読本に身近な生き物観察教材として掲載	継続実施
環境副読本の作成・配付（Ⅵ-1-2-1） [環：環境調整課]	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちのくらしと環境 明るい未来に向かって」（小学 4～6 年生用）13,500 部（指導用手引）650 部 ・「あしたをつかめ！いいね それならできる」（中学生用）11,500 部（指導用手引）450 部 	継続実施
水辺の楽校の活動支援（Ⅵ-1-1-2） [建緑：多摩川施策推進課]	市内 3 校（かわさき、とどろき、だいし）で 37 回実施、延べ 3,222 人が参加	市内 3 校（かわさき、とどろき、だいし）で計 38 回実施予定

プロジェクト事業⑤ 【生物多様性の保全に取り組む人材を育成する】	
<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の保全の観点盛り込んだ活動や調査等を実践する人材育成講座等を実施して、積極的に取り組む地域のリーダーを育成します。 	点検する項目 <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に関する講座等実施状況
【点検結果】 2017(平成 29)年度は、地域環境リーダー育成講座を 7 人が、緑化推進リーダー育成講座を 20 人が、里山ボランティア講座を 28 人、環境基本計画年次報告書ベース（緑化推進リーダー及び里山ボランティア講座は平成 22 年度以降からの計上分）で延べ 756 人が修了しました。	

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018 (平成 30) 年度計画等
自然調査に携わる人に向けた講座の実施（Ⅲ-3-1-1） [教：青少年科学館]	□講座実施状況 ・自然環境の調査や研究を担う人材（市民）育成につながる自然観察会や各種教室、講座の実施	継続実施及び新規計画 <ul style="list-style-type: none"> ・植物観察会 ・昆虫観察・撮影講座 ・生田緑地観察会 ・その他各種観察会、講座
地域環境リーダー育成講座の実施（Ⅵ-1-3-1） [環：環境調整課]	□年 10 回の講座を実施、受講者 7 人がすべて修了生となり、新たな地域環境リーダーとなった。 修了生総計：316 人	□入門編 5 回、実践編 5 回の講座を実施
地域の緑化を自主的に推進する人材の育成（Ⅲ-1-3-3） [建緑：みどりの協働推進課]	□緑化推進リーダー育成講座修了者数 <ul style="list-style-type: none"> ・花と緑のまちづくり講座 修了者：20 名 ・里山ボランティア育成講座 修了者：28 名 	継続実施

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018 (平成 30) 年度計画等
里山ボランティア育成講座の実施(Ⅲ-1-1-2) [建緑:みどりの協働推進課]	□講座修了者数:28名 (受講修了者延べ数:442名)	継続実施

基本方針Ⅱ “生き物をつなげる”

(3) 施策別取組方針「守る」:生き物の生息・生育の拠点となる緑や水を守る

リーディング・プロジェクト:生き物のすみかを守って生き物をつなげるプロジェクト

プロジェクトの目的

- ・生き物の生息・生育の拠点を守る →プロジェクト事業⑥
- ・生き物にとって大切な水環境を守る →プロジェクト事業⑦

プロジェクト事業⑥ 【拠点となる樹林や農地を保全する】

- ・生き物の生息・生育環境となる樹林地を保全する取組を推進します。
- ・市内の農地の保全を推進し、生き物の生息・生育環境の保護につなげます。

点検する項目

- ・保管理計画策定地区数等、緑地、農地等を守る取組の実施状況

【点検結果】

2017(平成 29)年度までに、久末イノ木特別緑地保全地区など 29 地区の保管理計画を策定しました。特別緑地保全地区の指定等による緑地の保全や都市農地の保全に向けて、各種の取組を推進しています。

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018(平成 30)年度計画等
特別緑地保全地区等で植生に配慮した保管理計画の策定(Ⅲ-1-1-1) [建緑:みどりの協働推進課]	□計画作成地区名 ・向原の里特別緑地保全地区 ・小沢城址特別緑地保全地区 ・おっ越し山緑の保全地域 ・久地特別緑地保全地区 ・多摩特別緑地保全地区 ・菅馬場谷特別緑地保全地区 ・黒川広町緑の保全地域 ・南野川特別緑地保全地区 ・岡上和光山緑の保全地域 ・神庭特別緑地保全地区 ・岡上梨子ノ木特別緑地保全地区 ・久末特別緑地保全地区 ・黒川よこみね特別緑地保全地区 ・菅生ヶ丘特別緑地保全地区 ・王禅寺源左衛門谷特別緑地保全地区 ・生田榎戸特別緑地保全地区 ・柿生の里特別緑地保全地区 ・菅小谷緑の保全地域 ・片平緑の保全地域 ・栗木山王山特別緑地保全地区 ・井田平台特別緑地保全地区 ・岡上丸山特別緑地保全地区 ・久末東特別緑地保全地区 ・王禅寺東特別緑地保全地区 ・生田寒谷特別緑地保全地区 ・多摩美特別緑地保全地区 ・早野梅ヶ谷特別緑地保全地区 ・久末イノ木特別緑地保全地区(新規)	□策定予定 ・高石特別緑地保全地区
特別緑地保全地区、緑の保全地域の指定等による良好な緑地保全の推進(Ⅲ-1-1-1) [建緑:みどりの協働推進課]	・特別緑地保全地区指定数、面積 75か所、128.3ha ・緑の保全地域指定数、面積 34か所、31.2ha	□特別緑地保全地区拡大予定:6か所 □緑の保全地域指定予定:2か所 □保全緑地取得予定:4ha

具体的施策名	2017（平成 29）年度実績	2018（平成 30）年度計画等
[建緑：みどりの保全整備課]	・保全緑地取得面積 104.8ha	
環境影響評価の手続における緑及び生態系、並びに地下水の保全・回復への取組の要請 （Ⅲ-3-1-2） [環：環境評価室]	<input type="checkbox"/> 審査件数 ・緑：6件 ・生態系：0件 ・地下水：0件	継続実施
都市農地の多面的な機能の活用 （Ⅲ-1-2-1） [経：農地課]	<input type="checkbox"/> グリーン・ツーリズムの実践 <input type="checkbox"/> 明治大学との連携 <input type="checkbox"/> 大型農産物直売所内情報発信施設における共同事業の実施 <input type="checkbox"/> 早野里地里山づくり推進計画に基づく協働事業等の実施 <input type="checkbox"/> 遊休農地対策事業の実施	継続実施 継続実施 継続実施 継続実施 継続実施
里山再生事業の推進 （Ⅲ-1-1-5） [建緑：みどりの協働推進課]	<input type="checkbox"/> 黒川地区における「緑地保全活用基本計画」の推進、里山の保全・再生、体験学習等の検討 <input type="checkbox"/> 岡上地区における市民・大学・小学校との連携による保全活動・環境教育の取組の推進 <input type="checkbox"/> 早野地区における都市農地、里地里山の保全と活用による価値向上と活性化に向けた取組の推進	継続実施 継続実施 継続実施

プロジェクト事業⑦ 【良好な水環境を保全する】

・水量、水質、水生生物、水辺地の4つの要素がバランスよく構成されている状態を目指して良好な水環境の保全に取り組みます。

点検する項目
・計画の進捗状況

【点検結果】

「水環境保全計画」に基づき、4つの要素を総合的に捉えた施策を推進しています。

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018（平成 30）年度計画等
水環境の要素を総合的に捉えた施策の推進		
水環境保全計画に基づく、計画的、総合的な施策の推進 （Ⅲ-2-2-1） [環：水質環境課]	<input type="checkbox"/> 取組状況 ・水環境保全計画に基づき河川、地下水、海域等の水環境を一体とし、総合的に水環境の保全を推進	継続実施
水環境保全計画に基づく水質保全対策の推進（Ⅳ-2-1-1） [環：水質環境課]	<input type="checkbox"/> 「水環境保全計画」の推進事業 ・河川の水質、生物調査	継続実施
水環境保全計画に係る推進委員会における総合的な施策の推進 （Ⅳ-2-1-6） [環：水質環境課]	・推進委員会：1回開催 ・各分科会の開催	継続実施
水環境保全計画に基づく、関係機関との連携による総合的な地下水保全対策の実施 （Ⅳ-2-1-6） [環：水質環境課]	<input type="checkbox"/> 計画に基づく対策の実施状況 概ね計画通り実施	<input type="checkbox"/> 雨水浸透施設の普及促進
水環境保全計画に基づく総合的かつ計画的な地盤環境（地下水を含む）の保全 （Ⅳ-2-2-4） [環：水質環境課]	<input type="checkbox"/> 「水環境保全計画」に基づき、推進委員会及び分科会を開催し、推進委員相互の連携と協力により地盤環境（地下水を含む）の保全を推進	継続実施

(4) 施策別取組方針「つなぐ」：生き物の生息・生育環境をつなぐ

リーディング・プロジェクト：緑と水をつなげたコリドーで生き物をつなげるプロジェクト

プロジェクトの目的
<ul style="list-style-type: none"> ・生き物に配慮したコリドーづくりで生き物の生息・生育の拠点をつなぐ →プロジェクト事業⑧ ・広域的な視点で緑と水をつなぐ →プロジェクト事業⑨

プロジェクト事業⑧ 【河川を活用して拠点をつなげる】	
<ul style="list-style-type: none"> ・河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全創出するための河道の形成を図ります。 	<p>点検する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多自然整備の実施延長等状況
<p>【点検結果】</p> <p>河川改修区間延長（多自然川づくり）は、平瀬川支川で累計護岸の延長が781mとなっています。</p>	

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018 (平成 30) 年度計画等
多自然川づくりの推進 （河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するための河川管理）（Ⅲ-2-2-1） [建緑：河川課]	<input type="checkbox"/> 河川改修区間延長（多自然川づくり） ・平瀬川支川：0m（累計 781m）	<input type="checkbox"/> 計画 ・平瀬川支川：護岸 87m
良好な自然環境を残す多自然の河川の維持・再生（Ⅲ-2-3-2） [建緑：多摩川施策推進課] [建緑：河川課]	<input type="checkbox"/> 多摩川に関する推進計画「新多摩川プラン」の推進 ・ごみ清掃 ・生物が棲みやすい環境創造のための刈り残しの実施	<input type="checkbox"/> 多摩川に関する推進計画「新多摩川プラン」の推進
河川の整備における漁礁ブロック、魚道の設置等、生物の生息環境への配慮の実施（Ⅲ-3-1-2） [建緑：河川課]	<input type="checkbox"/> 設置件数（累計） ・魚道：8 か所 ・漁礁ブロック：1 か所	実施未定

プロジェクト事業⑨ 【広域的に生き物の生息・生育環境をつなげる】	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民や事業者、近隣自治体等との協働により、広域的な環境保全に取り組みます。 	<p>点検する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域連携事業の実施状況
<p>【点検結果】</p> <p>関東地方水質汚濁対策連絡協議会や東京湾岸自治体との連携による広域的な公共用水域対策を推進しました。</p>	

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018 (平成 30) 年度計画等
<p>海域及び河川流域の関係自治体、関係機関との連携の強化、及び広域的な連携の取組</p>		
河川流域自治体との連携による水質汚濁防止対策の推進（Ⅳ-2-1-4） [環：水質環境課]	<input type="checkbox"/> 関東地方水質汚濁対策連絡協議会	継続実施
東京湾岸自治体による東京湾の水質保全対策の推進（Ⅳ-2-1-4） [環：水質環境課]	<input type="checkbox"/> 国への要請 <input type="checkbox"/> 東京湾大感謝祭に参加	継続実施
河川流域の関係自治体、関係機関との連携の強化（Ⅳ-2-1-4） [環：水質環境課]	<input type="checkbox"/> 関東地方水質汚濁対策連絡協議会 ・多摩川・鶴見川・相模川部会水質事故対策訓練	継続実施

(5) 施策別取組方針「創る」：まちなかに生き物の生息・生育の拠点を創る

リーディング・プロジェクト：まちなかに拠点を創って生き物をつなげるプロジェクト

プロジェクトの目的
<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設を中心に生き物の生息・生育環境を創る →プロジェクト事業⑩ ・更なる緑化推進により生き物の生息・生育環境を創る →プロジェクト事業⑪

プロジェクト事業⑩ 【生き物に配慮した公園づくり】	
<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設、とりわけ公園等において樹林地、草地の確保や、花や実のなる樹木の植栽・管理等、生き物に配慮した整備等を推進します。 	<p>点検する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の生息・生育地整備箇所数等状況
<p>【点検結果】</p> <p>開発行為等による提供公園として、6か所 1,549m²が増えたほか、小田公園におけるリフレッシュパーク事業を平成29年7月に完了しました。</p>	

具体的施策名	2017(平成29)年度実績	2018(平成30)年度計画等
生き物に配慮した整備等マニュアルづくり(Ⅲ-3-1-2) [環：環境調整課]	<input type="checkbox"/> 周知 ・生き物のいる環境づくり～生物多様性に配慮した公共施設の整備等～を庁内向けに周知	継続実施
街区公園、近隣公園*等の身近な公園の整備(Ⅲ-1-4-1) [建緑：みどりの保全整備課] [建緑：みどりの協働推進課]	<input type="checkbox"/> 街区公園等の整備拡充 開発行為等による提供公園6か所 1,549m ² <input type="checkbox"/> リフレッシュパーク事業の推進(小田公園)	継続実施

プロジェクト事業⑪ 【生き物に配慮した緑化地づくり】	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生態系に配慮した植栽や、民有地等における屋上、壁面緑化等を活用した建築物周辺の更なる緑化等により、生き物の生息・生育に配慮した緑化を推進します。 	<p>点検する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創出された緑化地面積や緑化件数
<p>【点検結果】</p> <p>市と事業所等との緑化協定の締結数は67件で緑地面積は153ha(達成率100%)となっているほか、川崎市緑化指針に基づく民間の開発事業に対する指導・助言を行いました。</p>	

具体的施策名	2017(平成29)年度実績	2018(平成30)年度計画等
建築物等における生き物に配慮した緑化の助言(Ⅲ-3-1-2) [建緑：みどりの協働推進課]	<input type="checkbox"/> 川崎市緑化指針に基づく指導・助言	継続実施
建築物環境配慮制度の推進(Ⅰ-2-1-2) [ま：建築指導課]	<input type="checkbox"/> 届出件数：63件	継続実施
開発事業に関する緑化及び緑の管理等についての緑化指針に基づく指導・助言(Ⅲ-1-3-3) [建緑：みどりの協働推進課]	<input type="checkbox"/> 指導件数：129件	継続実施
公共事業の実施において、対象地域内での生物生息・生育環境保全、再生、創出への配慮についての助言指導(Ⅲ-3-1-2) [建緑：みどりの協働推進課]	<input type="checkbox"/> 川崎市緑化指針に基づく指導・助言	継続実施

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018 (平成 30) 年度計画等
民間による開発事業に対する生息地の保全・再生への配慮についての助言指導(Ⅲ-3-1-2) [建緑：みどりの協働推進課]	<input type="checkbox"/> 川崎市緑化指針に基づく指導・助言	継続実施
市と事業所等との緑化協定の締結による事業所における緑化の推進(Ⅲ-1-3-3) [建緑：みどりの協働推進課]	<input type="checkbox"/> 協定締結数：67件 <input checked="" type="checkbox"/> 緑地面積：153ha：達成率 100%	継続実施

基本方針Ⅲ “情報をつなげる”

(6) 施策別取組方針「集める」：生物多様性に関する様々な情報を集める

リーディング・プロジェクト：調査や知見等を集めて情報をつなげるプロジェクト

プロジェクトの目的

- ・多様な主体と連携して生物多様性に関する情報を集める →プロジェクト事業⑫
- ・生物多様性に関する知見を集める →プロジェクト事業⑬

プロジェクト事業⑫ 【市域の生き物について調べる】

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・様々な事業で実施されている生き物情報を収集、整理するとともに、地域を絞り込んだ調査や市民団体等と連携した調査等により、市域の生き物に関する情報を取りまとめます。 | <p>点検する項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の動植物等確認種数等 |
|---|---|

【点検結果】

植物：1,353種、菌類：576種、鳥類：210種、哺乳類：18種、両生類・爬虫類：22種、トンボ：62種類、チョウ：85種類、魚類：50種、ほか水生生物

具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018(平成 30)年度計画等
「自然環境調査」等による現存植生や生物生息調査の実施 (Ⅲ-3-1-1) [環：水質環境課] [環：環境総合研究所] [教：青少年科学館]	□調査実施地区数 ・生物の生息地調査の実施 ・親水施設調査 3 地点	継続実施 ・親水施設調査 3 地点 ・市域の自然調査及び資料収集整理
市内河川や河口干潟等における水辺生物の調査の実施 (Ⅲ-3-1-1) [環：環境総合研究所] [環：水質環境課]	□調査実施地区数： ・生物調査 4 地点 (水質環境課) ・親水施設水質調査 9 地点 (環境総合研究所) ・親水施設生物調査 3 地点 (環境総合研究所) ・多摩川河口干潟生物調査 5 地点 (環境総合研究所)	□調査実施地区数： ・生物調査 4 地点 (水質環境課) ・親水施設水質調査 9 地点 (環境総合研究所) ・親水施設生物調査 3 地点 (環境総合研究所) ・多摩川河口干潟生物調査 3 地点 (環境総合研究所) ・東扇島人工海浜生物調査 3 地点 (環境総合研究所)
川崎港生物相調査 (Ⅲ-3-1-1) [環：水質環境課]	□海域生物調査 4 地点	継続実施
市内の希少な動植物等の生育・生息状況調査の実施 (Ⅲ-3-1-1) [環：環境総合研究所]	□動植物の生育・生息状況 ・希少生物調査 8 地点 (親水施設生物調査及び多摩川河口干潟生物調査と併せて実施)	□動植物の生育・生息状況 ・希少生物調査 9 地点 (親水施設生物調査、多摩川河口干潟生物調査及び東扇島人工海浜生物調査と併せて実施)
川崎生き物マップの運用 (Ⅲ-3-1-1) [環：環境調整課]	□寄せられた情報数 ・2,951 件	継続実施

プロジェクト事業⑬ 【生物多様性の新たな知見をつくる】		
<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の特性を踏まえた生物多様性の指標を作成し、生物多様性に関する状態の把握に取り組みます。 多様な主体と連携した調査・研究等の実施により、生物多様性に関する調査研究を推進します。 	点検する項目	<ul style="list-style-type: none"> 指標の策定 連携した取組の件数等状況
【点検結果】 市内6つのエリアの代表地点での春夏秋冬における生き物調査を実施しました。		
具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018 (平成 30) 年度計画等
生物多様性に関する指標づくり (Ⅲ-3-1-2) [環：環境調整課]	<input type="checkbox"/> 市民参加型生き物調査の試行実施	<input type="checkbox"/> 市民参加型生き物調査の実施
様々な主体の参画による新たな保全緑地管理の検討 (Ⅲ-1-1-5) [建緑：みどりの協働推進課]	<input type="checkbox"/> 玉川大学 ・岡上杉山下特別緑地保全地区でノネズミ類と植生に関する研究 <input type="checkbox"/> 明治大学 ・西黒川特別緑地保全地区での生態調査等の実施 <input type="checkbox"/> 東京農業大学 ・早野梅ヶ谷特別緑地保全地区で林床管理が生態系に及ぼす影響に関する研究	継続実施

(7) 施策別取組方針「伝える」：地域間、主体間で伝えて情報をつなげるプロジェクト

リーディング・プロジェクト：地域間、主体間で伝えて情報をつなげるプロジェクト

プロジェクトの目的		
<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の生物多様性に関する情報をわかりやすく伝える →プロジェクト事業⑭ 活動の情報等について主体を越えて伝える →プロジェクト事業⑮ 		
プロジェクト事業⑭ 【生き物情報を“見える化”する】		
<ul style="list-style-type: none"> 市民等から身近な生き物に関する情報を集め、電子地図等を活用して市域の四季折々の生き物の情報をわかりやすく伝えていきます。 	点検する項目	<ul style="list-style-type: none"> 電子地図等に掲載された生き物の情報数
【点検結果】 市民投稿型のかわさき生き物マップに寄せられた情報数は 2,951 件でした		
具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018 (平成 30) 年度計画等
川崎生き物マップの運用 (Ⅲ-3-1-1) [環：環境調整課]	□寄せられた情報数 ・2,951 件	継続実施
水環境保全システムの運用 (Ⅲ-3-1-1) [環：水質環境課]	□水環境情報の発信状況 ・水辺地マップの運用	継続実施

プロジェクト事業⑮ 【情報を利用してネットワークを構築する】		
<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性に関する様々な施設間での情報共有の推進や、市民、事業者等、主体間での情報交流等を図ります。 	点検する項目	<ul style="list-style-type: none"> 交流の機会等の実施状況
【点検結果】 庁内で組織する生物多様性に関する施設間庁内情報交流会等を通じて生物多様性に関する情報交換を行いました。		
具体的施策名	2017(平成 29)年度実績	2018 (平成 30) 年度計画等
生物多様性に関する施設等 間の情報交流の機会づくり (Ⅲ-3-1-1) [教：青少年科学館] [建緑：夢見ヶ崎動物公園] [建緑：多摩川施策推進課] [環：環境調整課] [環：地球環境推進室]	□交流の機会の実施状況 ・環境教育・学習推進会議：1 回 ・生物多様性に関する施設間庁内情報交流会：1 回	継続実施
多摩川流域の市民・企業・行政の情報交換や意見交換の場の創出(Ⅲ-4-3-1) [建緑：企画課] [建緑：多摩川施策推進課]	・多摩川流域セミナーの開催(年 2 回)	継続実施

4 生物多様性かわさき戦略の施策評価

生物多様性かわさき戦略では、評価方法について次のとおりとしています。

生物多様性の指標について

生物多様性は、自然環境、生き物、人とのかかわり等が複雑に絡み合って成立していることから、様々な角度から点検する必要があります。

現状では、生物多様性の状態を考察するには、情報が十分といえる状況にはないことから、戦略では、前述のような施策の進行管理による点検を第一としながらも、生物多様性の取組の状況を測るために、国が現在策定中の「都市の生物多様性指標」等を参考に、今後、調査情報の蓄積等を図りながら、川崎市における生物多様性指標を設定して点検していきます。

施策の進行管理と併せた、生物多様性の指標による評価を通じて、川崎市における生物多様性の状態の把握に努めるとともに、適宜市民、事業者等の意見等を得ながら、戦略の改定の際等の基礎情報としていきます。

2015（平成 27）年度に、市内の生き物調査の結果（2013（平成 25）年度からの 3 年間）を参考としながら、エリアごとに参照とする指標種を選定し、2016（平成 28）年度に参照種として設定しました。戦略の期間の終期にあたる 2018（平成 30）年度から 2019（平成 31）年度にかけて行う生き物調査によって、参照種数の増減をもって評価をすることとしています。

したがって、現時点での施策の評価については、環境基本計画年次報告に示す生物多様性の保全に関する指標評価と方向評価を参照します。

施策の方向 III-3 生物多様性の保全

指標	目標・現状・指標がめざす方向
自然観察会等実施状況	【基準年度】生田緑地観察会：年 36 回開催 ほか（2009 年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い
市内の動植物等確認種数	【基準年度】植物：1,451 種、鳥類：166 種以上 ほか（2009 年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い
保安全管理計画作成地区数	【基準年度】17 地区（2009 年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：自然観察会等実施状況 ・生田緑地観察会ほか：143 回開催（対前年度：14 回増加、対基準年度：多い）	5*	5
■指標：市内の動植物等確認種数 ・植物：1,353 種、鳥類：210 種、哺乳類：18 種、両性類・爬虫類：22 種、菌類：576 種 ※調査方法の変更のため、今年度は評価しない	—	
■指標：保安全管理計画作成地区数 ・久末イノ木特別緑地保全地区など 29 地区の保安全管理計画を策定（対前年度：1 地区増加、対基準年度：多い）	5*	

[方向評価は「*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

評価の数値は 5 段階評価（5：達成状況が対基準値、対前年度のいずれにおいても良い）

5 生物多様性の保全関連情報

1 市内の主な拠点施設

博物館	かわさき宙と緑の科学館	多摩区	川崎の身近な自然について学ぶことができる博物館
体験学習	川崎市環境総合研究所	川崎区	環境情報のアーカイブ。自然観察会も開催。
	大師河原水防センター	川崎区	だいし水辺の楽校による河口干潟での環境学習
	夢見ヶ崎動物公園	幸区	野生動物の生態や生息環境も学習できる動物園
	二ヶ領せせらぎ館	多摩区	かわさき水辺の楽校による多摩川での環境学習
	川崎市緑化センター	多摩区	草花づくりを学べる場所。様々な講習会等を開催
	水とかがやく未来館	多摩区	川崎市の水循環について学べる場所。
	黒川青少年野外活動センター	麻生区	黒川の自然の中での様々な野外体験の場
	明治大学黒川農場	麻生区	環境・自然・地域との共生をコンセプトとした農業研究
	王禅寺エコ暮らし環境館	麻生区	自然共生も含めた地球環境問題の学習施設
交流拠点	公財) 川崎市公園緑地協会	中原区	緑のまちづくりの推進に向けた支援組織
	生田緑地ビジターセンター	多摩区	生田緑地のレクチャーによる魅力発信施設
	農業情報センター	麻生区	セレスモス内にある情報発信施設
学習拠点	川崎市動物愛護センター	高津区	終生飼養等普及啓発として動物愛護教室を開催
	農業技術支援センター	多摩区	市内農業者への農業技術支援

2 生き物に関する情報の紹介冊子

自然ガイドブック	川崎市に残された生田緑地の貴重な自然を、豊富な写真や図とともに紹介 http://www.nature-kawasaki.jp/guidebook2/guidebook.html
水辺の生きもの—かわさき—	市内の河川や海岸で見られる生き物を紹介 http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-6-6-0-0-0-0-0-0.html
川崎港の公園周辺の生きもの	川崎港にある4か所の公園で見られる生き物を紹介 http://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000065477.html
川崎市内で見られる生き物 「身近な生き物観察シート」	小学校の中や街中の公園など川崎市域で見られる生き物を紹介 http://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000076675.html
生物多様性マガジン Iki・Tomo (UNDB-J 発行)	国連生物多様性の10年日本委員会が定期的に発行する情報誌 http://undb.jp/committee/tool/ikitomo/

3 自然観察等を行う上で役立つ地域情報

川崎ふるさとの小径【ガイドマップ 川崎散歩ゆるり旅】	10コースの自然とのふれあいと見どころを紹介 http://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000018395.html
あさおグリーン・ツーリズム	麻生区内の農と観光を楽しむ散策コースを11コースに分けて紹介 http://www.city.kawasaki.jp/280/cmsfiles/contents/0000035/35822/
緑と公園のページ	川崎市内の公園等について紹介 http://www.city.kawasaki.jp/shisetsu/category/30-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html
かわさきの道(みち)と川(かわ)	川崎市の道や川について紹介 http://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000063015.html
港の公園について	川崎港にある公園の紹介 http://www.city.kawasaki.jp/580/page/0000001315.html
かわさき生き物マップ	自然の中で見かけた生き物の市民投稿型地図情報サイト http://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000057126.html

4 生物多様性に関する情報

環境省の生物多様性対策	生物多様性ネットワーク (http://www.biodic.go.jp/)
環境省と各機関による組織	国連生物多様性の10年日本委員会 (http://undb.jp/)
環境省の外来生物対応	外来生物法 (https://www.env.go.jp/nature/intro/outline/index.html)

担当：川崎市環境局環境調整課 〒210-8577 電話 044-200-2387 FAX044-200-3921

6 (参考)市内の生物多様性の状況把握のための参照種

川崎市における生物多様性の指標の一つとして、平成 25～27 年度に行った生き物調査で確認した種の種数について、将来（平成 30～31 年度）に同様の調査により、増減比較し、市内の生物多様性の状況把握を行うにあたり参照種を平成 28 年度に設定しました。

(1)丘陵地の農地と樹林の生態系エリア参照種

No.	種群	種名	類似種、備考	No.	種群	種名	類似種、備考	
1	植物	シラカン		12	鳥類	ウグイス		
2		コナラ		13		エナガ		
3		エノキ	ケヤキ、ムクノキ	14		セッカ		
4		ニリンソウ	イチリンソウ	15		ミソサザイ		
5		サラシナショウマ		16		ルリビタキ		
6		ハンゲショウ		17		ジョウビタキ		
7		タマノカンアオイ	カンアオイ	18		キビタキ		
8		ムラサキケマン		19		タヒバリ	ピンズイ	
9		ヤマザクラ		20		アトリ		
10		クサイチゴ		21		マヒワ	カワラヒワ	
11		ゲンゲ		22		シメ		
12		コクサギ		23		イカル	コイカル	
13		イロハモミジ		24		ホオジロ	カシラダカ	
14		ツリフネソウ		25		アオジ		
15		タチツボスミレ	ニオイスミレ等	1		爬虫類	ヒガシニホントカゲ	ニホンカナヘビ
16		オカトラノオ		2			ニホンカナヘビ	ヒガシニホントカゲ
17		ムラサキシキブ	コムラサキ	3			アオダイショウ	シマヘビ
18		アキノタムラソウ		4			ヤマカガシ	
19		ガマズミ	コバノガマズミ	5			ニホンマムシ	シマヘビ
20		ツリガネニンジン		1		両生類	ニホンアマガエル	シュレーゲルアオガエル
21		ノハラアザミ		2			ニホンアカガエル	ヤマアカガエル
22		オモダカ		3			ヤマアカガエル	ニホンアカガエル
23		ヤブカンソウ		4			シュレーゲルアオガエル	アマガエル
24		ヤマユリ		1		昆虫類	オニヤンマ	
25		ホトギス	ヤマホトギス	2			ショウジョウトンボ	
26		ヤマホトギス	ホトギス	3	ケラ			
27		エビネ		4	ヤマトフキバッタ			
28		キンラン	ギンラン、ササバギンラン	5	イボバッタ			
29		シュンラン		6	ヒグラシ		ツクツクボウシ	
1	哺乳類	ノウサギ		7	ハルゼミ			
2		アズマモグラ		8	アオオサムシ			
3		カヤネズミ		9	コクワガタ			
4		タヌキ	アライグマ、ハクビシン	10	ノギリクワガタ			
5		イタチ	ホンドテン	11	クロカナブン			
6		アナグマ		12	カブトムシ			
1	鳥類	アオサギ		13	ヤマトタムシ			
2		ホトギス	ツツドリ、カッコウ	14	トゲアリ			
3		クサシギ	イソシギ	15	クロアナバチ			
4		オオタカ	ハイタカ	16	クマバチ			
5		ノスリ		17	ダイミョウセセリ	イチモンジセセリ		
6		フクロウ		18	カラスアゲハ本土亜種	クロアゲハ、ミヤマカラスアゲハ		
7		カワセミ		19	キアゲハ	ナミアゲハ		
8		アカゲラ	アオゲラ	20	ウラナミアカシジミ			
9		アオゲラ	アカゲラ	21	サトキマダラヒカゲ	ヤマキマダラヒカゲ		
10		モズ	アカモズ					
11	ヤマガラ		1	魚類	ホトケドジョウ			

計 91種

(2)丘陵地の樹林の分散する生態系エリア参照種

No.	種群	種名	類似種、備考	No.	種群	種名	類似種、備考
1	植物	シラカシ		17	鳥類	タヒバリ	ビンズイ
2		コナラ		18		アトリ	
3		エノキ	ケヤキ、ムクノキ	19		マヒワ	
4		ミズヒキ		20		シメ	
5		ムラサキケマン		21		イカル	コイカル
6		ヤマザクラ		22		ホオジロ	カシラダカ
7		クサイチゴ		23		アオジ	
8		イロハモミジ		1	爬虫類	ヒガシニホントカゲ	ニホンカナヘビ
9		キツリフネ	ツリフネソウ	2		ニホンカナヘビ	ヒガシニホントカゲ
10		タチツボスミレ	ニオイスミレ等	3		シマヘビ	アオダイショウ、ニホンマムシ
11		ムラサキシキブ	コムラサキ	4		アオダイショウ	シマヘビ
12		アキノタムラソウ		1	両生類	アズマヒキガエル	
13		ガマズミ	コバノガマズミ	2		ニホンアマガエル	シュレーゲルアオガエル
14		ツリガネニンジン		3		ヤマアカガエル	ニホンアカガエル
15		ノハラアザミ		4		シュレーゲルアオガエル	アマガエル
16		ヤブカンゾウ		1	昆虫類	オオアオイトトンボ	アオイトトンボ
17		ヤマホトギス	ホトギス	2		オニヤンマ	
18		キツネノカミソリ		3		ヤマトフキバツタ	
19		ギンラン		4		イボバツタ	
20		シュンラン		5		ヒグラシ	ツクツクボウシ
1	哺乳類	アズマモグラ		6		ハルゼミ	
2		タヌキ	アライグマ、ハクビシン	7		オオアメンボ	アメンボ
3		イタチ	ホンドテン	8		コクワガタ	
1	鳥類	アオサギ		9		クロカナブン	
2		ホトギス	ツツドリ、カッコウ	10		カブトムシ	
3		オオタカ	ハイタカ	11		ヤマトタムシ	
4		フクロウ		12		トゲアリ	
5		カワセミ		13		クマバチ	
6		アカゲラ		14		ダイヨウセセリ	イチモンジセセリ
7		チョウゲンボウ		15		カラスアゲハ本土亜種	クロアゲハ、ミヤマカラスアゲハ
8		モズ	アカモズ	16		キアゲハ	ナミアゲハ
9		ヤマガラ		17	ウラナミアカシジミ		
10		ヒガラ	シジュウカラ	18	ムラサキシジミ	ムラサキツバメ	
11		ウグイス	ヤブサメ	19	サトキマダラヒカゲ	ヤマキマダラヒカゲ	
12		エナガ		20	オオミズアオ	オナガミズアオ	
13		ミソサザイ		21	クスサン		
14		ルリビタキ		1	底生動物	サワガニ	モクズガニ
15		ジョウビタキ		計 76種			
16		キビタキ					

(3)低地の農地の分散する生態系エリア参照種

No.	種群	種名	類似種、備考
1	植物	スベリヒユ	
2		キツネノボタン	
3		ムラサキケマン	
4		タネツケバナ	
5		ナワシロイチゴ	クサイチゴ
6		セリ	
7		コナスビ	
8		ヒヨドリジョウゴ	
9		カワヂシャ	オオカワヂシャ
10		オトコエシ	
11		ノコンギク	カントウヨメナ
12		ヤブカンゾウ	ノカンゾウ
1	哺乳類	アズマモグラ	
2		ヒナコウモリ科の一種	アブラコウモリ、ヒナコウモリ
1	鳥類	キジ	
2		アオサギ	
3		コサギ	ダイサギ、チュウサギ
4		カワセミ	
5		コゲラ	
6		チョウゲンボウ	
7		モズ	
8		シジュウカラ	ヒガラ
9		エナガ	
10		メジロ	
11		ツグミ	
12		ジョウビタキ	
13		キセキレイ	
14		セグロセキレイ	ハクセキレイ
15		シメ	
16		アオジ	
1	爬虫類	ヒガシニホントカゲ	ニホンカナヘビ
2		ニホンカナヘビ	ヒガシニホントカゲ
1	昆虫類	ハゲロトンボ	
2		オニヤンマ	
3		ショウジョウトンボ	
4		アブラゼミ	
5		ハイイロゲンゴロウ	
6		アオドウガネ	ドウガネブイブイ、ヤマトアオドウガネ
7		シロテンハナムグリ	シラホシハナムグリ
8		クマバチ	
9		ナミアゲハ	キアゲハ
1	魚類	カマツカ	ツチフキ
計 42種			

(4)低地の市街地の生態系エリア参照種

No.	種群	種名	類似種、備考
1	植物	ナズナ	イヌガラシ
2		カタバミ	
3		ノブドウ	
4		ホトケノザ	ヒメオドリコソウ
5		ハハコグサ	
1	哺乳類	ヒナコウモリ科の一種	アブラコウモリ、ヒナコウモリ
1	鳥類	カルガモ	
2		カワセミ	
3		コゲラ	
4		チョウゲンボウ	
5		オナガ	
6		シジュウカラ	ヒガラ
7		ツバメ	イワツバメ
8		メジロ	
9		ツグミ	
10		ジョウビタキ	
11		ハクセキレイ	
12		カワラヒワ	マヒワ
1	爬虫類	ニホンヤモリ	
1	昆虫類	ギンヤンマ	クロスジギンヤンマ
2		シオカラトンボ	オオシオカラトンボ
3		ハラビロカマキリ	
4		カネタタキ	
5		ミンミンゼミ	
6		アオドウガネ	ドウガネブイブイ、ヤマトアオドウガネ
7		シロテンハナムグリ	シラホシハナムグリ
8		アオスジアゲハ	
9		ナミアゲハ	キアゲハ
10		ツマグロヒョウモン	
1	魚類	モツゴ	
計 30種			

(5)多摩川の生態系エリア参照種

No.	種群	種名	類似種、備考
1	植物	オニグルミ	
2		アカメヤナギ	
3		イヌタデ	
4		ミソソバ	
5		ハマダイコン	
6		ジュズダマ	
7		オギ	ススキ
8		ススキ	オギ
9		ヨシ	クサヨシ
10		カンエンガヤツリ	ヌマガヤツリ
1	哺乳類	アズマモグラ	
2		ヒナコウモリ科の一種	アブラコウモリ、ヒナコウモリ
3		タヌキ	アライグマ、ハクビシン
1	鳥類	マガモ	コガモ
2		カルガモ	
3		カンムリカイツブリ	
4		ハジロカイツブリ	
5		ダイサギ	チュウサギ、コサギ
6		コサギ	ダイサギ、チュウサギ
7		バン	
8		オオバン	
9		イカルチドリ	コチドリ
10		コチドリ	イカルチドリ
11		シロチドリ	イカルチドリ
12		セイタカシギ	
13		タシギ	
14		オオソリハシシギ	
15		チュウシャクシギ	
16		クサシギ	タカブシギ
17		タカブシギ	クサシギ
18		キアシシギ	
19		イソシギ	
20		ユリカモメ	
21		コアジサシ	
22		ミサゴ	
23		ノスリ	
24		カワセミ	
25		ハヤブサ	
26		ヒバリ	
27		オオヨシキリ	コヨシキリ
28		ツグミ	
29		ハクセキレイ	セグロセキレイ

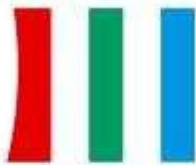
No.	種群	種名	類似種、備考
30	鳥類	セグロセキレイ	ハクセキレイ
31		タヒバリ	ピンズイ
32		カワラヒワ	マヒワ
33		カシラダカ	ホオジロ
1	爬虫類	ニホンスッポン	
2		アオダイショウ	シマヘビ
1	昆虫類	ハグロトンボ	
2		ギンヤンマ	クロスジギンヤンマ
3		コシアキトンボ	
4		オオカマキリ	チョウセンカマキリ
5		エンマコオロギ	
6		ケラ	
7		ツチイナゴ	
8		ショウリョウバッタ	オンブバッタ、ショウリョウバッタモドキ
9		トノサマバッタ	クルマバッタ、クルマバッタモドキ
10		マメコガネ	
11		ナナホシテントウ	
12		イチモンジセセリ	チャバネセセリ
13		ベニシジミ	
14		コムラサキ	ムラサキツバメ
15		ゴマダラチョウ	アカボシゴマダラ
1	魚類	マルタ	ウグイ
2		アユ	
3		ヨシノボリ属	カワヨシノボリ、トウヨシノボリ類
計 66種			

(6)臨海部の生態系エリア参照種

No.	種群	種名	類似種、備考
1	植物	イタドリ	
2		ハマダイコン	
3		トベラ	
4		カジイチゴ	モミジイチゴ
5		ノブドウ	
6		ガガイモ	
7		チガヤ	
1	哺乳類	ヒナコウモリ科の一種	アブラコウモリ、ヒナコウモリ
1	鳥類	ホシハジロ	
2		キンクロハジロ	
3		スズガモ	
4		カワウ	
5		コチドリ	イカルチドリ
6		シロチドリ	イカルチドリ
7		イソシギ	ハマシギ
8		ユリカモメ	
9		ウミネコ	セグロカモメ
10		コアジサシ	
11		ミサゴ	
12		モズ	
13		オナガ	
14		シジュウカラ	ヒガラ
15		メジロ	
16		イソヒヨドリ	
17		ハクセキレイ	
1	爬虫類	ニホンヤモリ	
1	昆虫類	シオカラトンボ	オオシオカラトンボ
2		ハラビロカマキリ	
3		エンマコオロギ	
4		マダラスズ	
5		ショウリョウバッタ	オンブバッタ、ショウリョウバッタモドキ
6		クマゼミ	
7		アブラゼミ	
8		ツクツクボウシ	ヒグラシ
9		アオドウガネ	ドウガネブイブイ、ヤマトアオドウガネ
10		シロテンハナムグリ	シラホシハナムグリ
11		アオスジアゲハ	
12		ナミアゲハ	キアゲハ
13		ベニシジミ	
14		ツマグロヒョウモン	
1	底生動物	シオフキガイ	アサリ、ホンビノスガイ
2		マテガイ	オオマテガイ
3		ゴカイ科	イソゴカイ、Hediste属
4		フナムシ	キタフナムシ
5		テナガエビ	
6		マメコブシガニ	
7		コメツキガニ	チゴガニ
8		ケフサイソガニ	タカノケフサイソガニ
計 48種			

7 (参考) 生物多様性の保全に向けた動き

年	世界	日本	川崎市
1992年	国連環境開発会議（地球サミット）で「生物多様性条約」（CBD）を採択		
1995年		「生物多様性国家戦略」策定	川崎市緑の基本計画「かわさき緑の30プラン」を策定 川崎市環境教育・学習基本方針を策定
2002年	生物多様性条約第10回締約国会議（COP6）で2010年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる2010年目標を含む「生物多様性条約戦略計画」を決定	「新・生物多様性国家戦略」の決定	川崎市地下水保全計画を策定
2005年	ミレニアム生態系評価（MA）の発表		かわさき「農」の新生プランの策定
2006年	地球規模生物多様性概況第2版（GBO2）の発表		
2007年		「第三次生物多様性国家戦略」の決定	川崎市多摩川プランの策定
2008年		「生物多様性基本法」制定	
2010年	生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で新戦略計画・愛知目標（ポスト2010年目標）を決定 地球規模生物多様性概況第3版（GBO3）の発表	「生物多様性国家戦略2010」を閣議決定 「生物多様性地域連携促進法」制定 生物多様性総合評価報告書（JBO）を公表	生物多様性かわさきフォーラムを開催
2011年			庁内検討会議の設置、かわさき市民アンケートの実施 川崎市環境基本計画の全面改定 生田緑地ビジョンの策定
2012年		生物多様性国家戦略2012-2020を閣議決定	環境審議会に諮問 生物多様性かわさきフォーラムを開催 川崎市水環境保全計画を策定 かわさき臨海のもりづくり緑化推進計画の策定
2013年		SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークの構築	生態系エリア別に地点を絞ったいきもの調査を開始
2014年		つなげよう、支えよう 森里川海プロジェクトを開始	生物多様性かわさき戦略～人と生き物つながりプラン～を策定 かわさき生き物マップの運用開始
2015年	地球規模生物多様性概況第4版（GBO4）の発表 持続可能な開発目標（SDGs）を中核とする「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が国連総会で採択	生物多様性保全上重要な里地里山の選定 生物多様性分野における気候変動への適応の基本的考え方を公表	生物多様性かわさき戦略～人と生き物つながりプラン～に掲げるリーディングプロジェクトを本格的に開始 生物多様性かわさき戦略2015年度版年次報告書を公表
2016年		生物多様性及び生態系サービスの総合評価（JBO2）を公表	（リーディングプロジェクト短期目標最終年度） 川崎市新多摩川プランの策定 川崎市農業振興計画の策定
2017年			



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

平成 31 年 1 月

川崎市環境局環境調整課

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性
